

平成 30 年度

# 湖南省教育委員会事業評価

湖南省教育委員会

# 評価報告書

平成 30 年度

湖南省教育委員会評価委員会

## 平成 30 年度 湖南省教育委員会評価委員会の実施について

本委員会では、湖南省教育委員会事業評価を外部評価委員の体制で実施し、今日までの評価項目全体を評価するのではなく、毎年度実施する所管課の最終評価を踏まえ、継続的に目標を達成している事業などについては、所管課の評価を尊重し、今後、市の教育においてさらなる取組が必要な重要項目に対し、委員会として評価を行うこととした。

平成 30 年度は、別紙に掲げる 4 事業を評価対象とし、各委員からの意見をもとに、総評および各項目に対する講評を行った。

今後は、本報告書に記載してある評価をもとに令和元年度以降の取組の改善を進められ、さらなる本市の教育の向上を願うものである。

令和元年 5 月 13 日

湖南省教育委員会評価委員会

## 外部評価実施内容

- ①日 時 平成 30 年 11 月 19 日（月）午後 2 時 00 分から  
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室
- ②日 時 令和元年 5 月 13 日（月）午後 2 時 00 分から  
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室

### 評価体制

外部評価委員（評価委員会委員）

横 山 幸 司（委員長）  
中 村 善 司（副委員長）  
平 野 龍 雲  
平 地 幸 美  
松 島 静

### 評価対象事業数

4 事業（平成 30 年度最終評価シート 39 項目の内）

### 対象事業

- 資料No. 2（学校教育課）
  - ・体験的活動の推進
- 資料No. 5（図書館）
  - ・公立図書館の充実
- 資料No.14（生涯学習課）
  - ・青少年の体験的活動機会の充実と社会参加の促進
- 資料No.25（生涯学習課・図書館・学校教育課）
  - ・「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進

## 【総 評（全体）】

各事業の評価については、各委員より述べられた意見がすべてである。

全体の総括としては、まずは教育委員会評価委員会のあり方について申し上げたい。

この教育委員会事業評価については、事業の充実・改善を図ることに加え、無駄をなくし各事業の効率化を図ること等が目的であるが、重要な点の一つとして、評価委員皆さまの指摘・意見が今後の事業にどのように生かされているか、という点があげられる。

現状、すべての指摘事項が次年度以降の事業にどのように生かされているかについては、不明瞭な部分が多い。この評価委員会での指摘事項をいかに事業に生かしていくか、その中身について改善・検討を求めたい。

また、昨年度も申し上げたことになるが、評価の基となっている湖南省教育振興プランの計画期間が今年度をもって終了することから、次期教育振興プランの策定についても少し申し上げる。現在、事務局では次期教育振興プランの策定を進められていることと思うが、この策定にあたっては、まず現在行われている政策・事業を漏れなく把握し、その後それらの政策・事業の仕分けを行い、この作業を経てから新しい教育振興プランを策定することが望ましい。加えて、計画に示された政策・事業の目標や指標は、計画策定段階で明確にすべきことだと考える。

したがって、次期教育振興プランの策定にあたっては、この評価委員会で行う事業評価の評価基準に至るまでを念頭に置きながら、策定に取り組んでいただきたいと希望し、総評とする。

## 【講評（事業別）】

### ○資料No.2（学校教育課）

- ・体験的活動の推進

## 【コメント】

- ・近年の少子化は、学校に関わる世帯、あるいは関心を寄せる世帯が減少するということにつながっており、学校行事だけでなく地域行事への参画や地域への発信が大事である。遊びが減少し、大人が体験的活動を作り出さなければならない時代ではあるが、各校では様々な工夫をしながら取組を継続いただきたい。

- ・コミュニティ・スクール、地域学校協働本部での議論が見えてこないが、それぞれの組織でPDCAを議論していただき、事業の評価をしっかりとしていただきたい。
- ・コミュニティ・スクールの取組が、地域と学校で連携・共働して実施されている様子がよくわかった。社会教育の子育て支援は、教育委員会のみならず、福祉部局の政策も不可欠であり、また、家庭教育力の充実には各専門部局とのさらなる連携が必要である。
- ・コミュニティ・スクールが市内の大半の学校に設置され、それぞれの地域が地域性を活かして活動されていること、また、そのことで、子どもの安心安全な教育環境が確保されたり、活動などの参加を通して、子どもたちに多くの学びある体験ができたということは評価すべきことである。しかし、支えてくださる地域のボランティアが一部の人に片寄っていたり同じ人ばかりが関わっていることなどが気になるところである。世代交代という言葉では言いすぎかもしれないが、できるだけいろいろな世代や経験の持ち主にも加わってもらうようにすべきではないか。家庭の教育力を高めるという意味からしても、保護者を巻き込んで共に活動するという方向も大切である。

#### ○資料No.5（図書館）

- ・公立図書館の充実

#### 【コメント】

- ・電子図書館の導入は時代の流れではあるが、図書館に行かなくても図書館の利用ができるという点が電子図書館の特徴である。私は公立図書館の役割の一つに、学んだことを地域で役立てる、地域の活動につなげることがあると考えている。若い世代へのアプローチ方法は、今後、ますます変化していくことが考えられるので、その方向性についても検討していただきたい。
- ・電子図書館サービスの推進により図書館は様変わりと思われるが、湖南省の図書館は、今までどおり、生涯学習を発信する施設として、「図書館に行けば何か楽しいことがある」と思えるような催しを継続いただきたい。市民の「記憶に残る図書館」であってほしい。
- ・誰もが学べる機会を得ることのできる図書館は、今ではなくてはならない施設であり、図書館の充実は大きな目標でもあり、課題でもある。
- ・電子図書の導入が開始されたが、まだまだ身近に感じられない状況である

といえる。今は資料的なものがほとんどとのことではあるが、いずれは書籍も電子でという時代がそこまで来ていると思われる。国語の力こそが学力の基礎である。国語力は読書によって身に付けられると思うので、それまでに、実際の本を手に取り、文字を追い、ページをめくりながら次はどんな方向に話が進んでいくのかと、ドキドキして次のページに移るといった本当の本の良さを、幼い時から味わえる機会を大切にしていきたい。

○資料No.14（生涯学習課）

- ・ 青少年の体験的活動機会の充実と社会参加の促進

【コメント】

- ・ 昨年の青春祭を観覧したが、この取組が各学区の青少年育成市民会議のみなさんの協力を得て続いていることは頼もしい。中学生の実行委員の皆さんもいい経験になったと思う。短期的な評価も大事であるが、社会情勢をみながら、長期的な取組の方針も考えていく必要がある。
- ・ 青少年育成市民会議や学区民会議との連携やその団体の世代交代など多岐にわたりご苦労されていることがわかった。様々な手段を通じてコミュニケーション能力の向上を図ることが大切で、また、関係団体の連携により、体験活動機会の充実を図るなかでリーダー育成が出来るようなシステムとその事業を継続できる職員の配置が必要なように思う。
- ・ 青春祭は中学生が自ら計画し進行している姿が、見ていても微笑ましく頼もしく思うし、参加者皆が温かい気持ちにさせられるひと時である。例年4中学校中、2中学校に実行委員をお願いしているが、市内の取組であれば、4中学校が関わって開催できるようにもっていけないだろうか。この経験をした中学生が、それをきっかけに4中学校の自然な連携にもつながり成人式でまた実行委員になろうと繋がっていけば、リーダー育成のよい機会となるのではないか。
- ・ 成人式でも、一回の経験だけではなく経験した人が、次に企画する後輩に繋げる方法も考えていく必要がある。体験活動は学びも多く、一人でも多くの子どもたちが参加できるよう、募集の仕方や広報活動にも工夫をしていただきたい。

○資料No.25（生涯学習課・図書館・学校教育課）

- ・ 「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進

## 【コメント】

- ・読書活動の推進は、「楽しくて力のつく湖南省教育」の項目にも掲げられており、関係課がこのように取組を進めていることは大事なことである。また、互いに連携できる部分も多くあると思うので、引き続き連携を深めてほしい。また、幼児期からの読書習慣もとても大事であることから、健康福祉部との連携も継続いただきたい。
- ・3課合同の取組であるが、「地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進」は、何を数値目標にすべきかが検討課題である。  
P D C Aで細かく数値化し分析することでどの部分の取組が不足しているか、明確になるはずである。家庭教育が問題であれば各課でどんな取組ができるかを検討すべきである。
- ・乳幼児期から「読書の種まきプラン」として関係課を取り込んでの活動は、とても素晴らしいことである。ただ、関係各課による推進体制の調整や進行管理の方法について検討が進んでいないとの反省評価が3年連続で出されていることが、残念なことである。第3次計画を作成するにあたり、しっかりとした目標を決めて実行できるように取り組んでいただきたい。
- ・小さな時から家庭を巻き込んで読み聞かせや読書の良さを伝える、その努力が実り、本が好きになる子どもも多いと思うし、読み聞かせる親や大人にもお話のよさを再考させるきっかけとなり一石二鳥だと言える。  
また、子どもたちと本との出会いの場においては、外国籍の子どもたちはどのような環境にあるのか気になるところである。外国籍の子どもたちも最近は多国籍になってきており、個々への対応には無理があることは、十分承知しているが、図書については購入等検討いただきたい。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	伊藤 照男

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協働により教育力を高める
施策	1	家庭・地域の教育力を活かした地域学校協働活動の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域とともにある学校づくりの推進		
実施事業	学校運営協議会、地域学校協働本部の設置 地域学校協働活動の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	5,068
	歳出	報償費(謝礼)、消耗品費、役務費(保険料)	7,604

## 3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内でさらに小学校、中学校で学校運営協議会の設置を行うため、文部科学省CS推進体制構築事業(補助事業)を受けて持続可能な体制づくりを進めていく必要がある。
改善の方向性	地域住民の幅広い参画や、学校運営協議会での熟議を行い、学校と保護者・地域住民が課題を共有し、共通の目標ビジョンを持って一体となって子ども育てを進める組織体制を構築していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置
取組内容(活動指標)	平成30年度CS推進体制構築事業を受け、水戸小、甲西北中の2校が平成31年4月に学校運営協議会を設置できるように湖南省CS推進協議会を立ち上げて取り組む。 平成29年度に市内小・中13校で「地域学校協働本部」へ移行して設置。平成30年度は13本部の取組の充実をめざす。
目標(数値目標)	学校や中学校区の状況や実情を踏まえ、各学校ごとに地域の担い手となる子ども育てが持続するように取組の充実を図る。
達成効果(成果指標)	各まちづくり協議会や地元企業との連携や協働が進むようになり、各学校の状況や実情に即して「地域とともにある学校づくり」が進展していく。
実施事業	地域学校協働活動の充実
取組内容(活動指標)	市の財源措置と各校の計画、判断等から、地域学校協働本部、土曜日の教育支援活動、地域未来塾(放課後等学習教室)、地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組を学校と地域が双方向に連携・協働する活動を進める。
目標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内8校コミュニティ・スクール、市内13地域学校協働本部で実施する。
達成効果(成果指標)	各地域まちづくり協議会や地元企業等との連携や協働体制が進み、各校の状況や実情に即し、「地域とともにある学校づくり」が進展する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置
実施内容(進捗実績)	平成30年度湖南市内のコミュニティ・スクール(以下、CS)は小学校6校、中学校2校。市教育委員会が文部科学省CS推進体制構築事業を受託。水戸小、甲西北中の2校が平成31年4月に学校運営協議会の設置をめざし、CS推進協議会を2回開催。めざす児童・生徒の姿、組織や構造図、理事会規約等の検討を重ねている。また、事業の基盤として組織している市内小・中13校の地域学校協働本部における取組を校報、コミュニティだより、〇〇応援だより等の発信により、地域と学校の連携の実際の実績の認知度を高めている。
実施事業	地域学校協働活動の充実
実施内容(進捗実績)	昨年度市内全小・中学校で、学校支援地域本部から地域学校協働本部へ移行。市財源措置と各校の構想、計画等から、地域学校協働活動推進事業(①全小・中学校における地域学校協働活動②小学校9校における土曜日の教育支援活動③中学校4校における放課後等学習教室(地域未来塾)、小学校4校地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組を、学校と地域が双方向に連携・協働する活動を進めつつある。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校運営協議会、地域学校協働本部の設置	平成30年度湖南市内のコミュニティ・スクール(以下、CS)は小学校6校、中学校2校。市教育委員会が文部科学省CS推進体制構築事業を受託。水戸小、甲西北中の2校が平成31年4月に学校運営協議会の設置をめざし、市CS推進協議会を4回開催。めざす児童・生徒の姿、組織や構造図、理事会規約等の検討を終えた。また、事業の基盤として組織している市内小・中13校の地域学校協働本部における取組を校報、コミュニティだより等で発信により地域と学校の連携の実際の実績の認知度を高めてきた。	Ⓐ B C D
地域学校協働活動の充実	市内全小・中学校で、学校支援地域本部から地域学校協働本部へ移行を終えている。市財源措置と各校の構想、計画等から、地域学校協働活動推進事業(①全小・中学校における地域学校協働活動②小学校9校における土曜日の教育支援活動③中学校4校における放課後等学習教室(地域未来塾)、小学校4校において地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組を、学校と地域が双方向に連携・協働する活動を展開することができた。	Ⓐ B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内で学校運営協議会を未設置の1中学校区については、これまでの校区連携や地域の実態を生かして、中学校区で学校運営協議会を設置することを各校地域学校協働本部で検討していく必要がある。
改善の方向性	地域住民の幅広い参画や、地域学校協働本部、学校運営協議会での熟議を行い、学校と保護者・地域住民が課題を共有し、共通の目標ビジョンを持って一体となって子ども育てを進める組織体制を構築していく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	伊藤 照男

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携・協働により教育力を高める
施策	2	自律・協働・創造力をもつ子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	体験的活動の推進		
実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	247
	歳出	報酬(委員報酬)、報償費(謝礼)、消耗品費、印刷製本費、負担金	1,005

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	地域学校協働活動に関わる人の意識が高まる中で、地域全体で子ども育てに取り組もうとする気運を高めていく必要がある。
改善の方向性	学校支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わる「地域学校協働本部」「コミュニティ・スクール」を発展させていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
取組内容(活動指標)	学校支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わる「地域学校協働活動」「コミュニティ・スクール」へと発展させる。
目標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内8校でコミュニティ・スクール、市内13地域学校協働本部で実施する。
達成効果(成果指標)	学校の活動に関わる人の意識を高めることで、地域全体で子どもたちを育む気運が盛り上がってくる。子どもを取り巻く現状や学校の取組が伝わる中で、地域あげて子ども育てに取り組む気運、組織体制へ発展していく。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
実施内容(進捗実績)	市内小・中学校8校のコミュニティ・スクール、市内全小・中学校の地域学校協働本部において、単なる学校支援だけに留まらず、学校、地域あげて「子ども育て」をめざした連携・協働の取組が進みつつある。学校や地域における児童・生徒の育ちの姿を知らせる校報、コミュニティだより、〇〇応援団だより等で、学校や地域での児童・生徒の姿を発信する中で、地域全体で子ども育てに取り組む気運を高めている。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
コミュニティ・スクール・地域学校協働本部における地域との連携・協働	市内小・中学校8校のコミュニティ・スクール、市内全小・中学校の地域学校協働本部において、単なる学校支援だけに留まらず、学校、地域あげて「子ども育て」をめざした連携・協働の取組が進みつつある。学校や地域における児童・生徒の育ちの姿を知らせる校報、コミュニティだより、〇〇応援団だより等で、学校や地域での児童・生徒の姿を発信する中で、地域全体で子ども育てに取り組む気運を高めている。	(A) B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	「地域学校協働活動」に関わる人たちの意識が高まる中で、地域全体で子ども育てに取り組もうとする気運をさらに高めていく必要がある。
改善の方向性	地域による学校の「支援」から地域と学校の双方向の「連携・協働」へ、「個別の活動」から活動の「総合化・ネットワーク化」を図り、幅広い地域住民の参画による「地域学校協働活動」の推進を目指していく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施策	3	将来の夢や目標をもてる子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	キャリア教育の推進		
実施事業	小中学校における系統的な取組の実施		新規
主な財源 (千円)	歳入	交付金	336
	歳出	報償費(謝礼)、消耗品費、印刷製本費、役務費(保険料)	336

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	受入れ事業所が、十分確保できず、生徒が希望する職種の体験ができないことがある。
改善の方向性	職場体験学習の受入れ事業所をさらに開拓し、子どもたちの興味がある体験を充実させる。また、義務教育期間中に系統立てた指導を行い、進路選択の幅を広げる取組を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	小中学校における系統的な取組の実施
取組内容(活動指標)	小学校段階において、体験学習を充実させ、豊かな勤労観を養う。また、地域で、会社を運営されている人や、国内で活躍されている人などを講師として学校に招き、実体験を聴くことにより、夢と志を育てる。 中学2年生の時期に実施する職場体験学習を充実した取組にする。また、中学1年生、3年生時の進路学習において、高校受験に向けた進路学習に限らず、将来の仕事選びに幅広い選択ができるようなキャリア教育を進める。 『職業なりきりカード』を活用し、児童生徒の職業選択の幅を広げる。(全小中学校に配布)
目標(数値目標)	全小中学校において、キャリア教育の年間計画に沿った学習を進め、勤労への意欲や将来への希望を持つ生徒を育成する。
達成効果(成果指標)	職場体験学習を中心とした進路学習を通して、将来の夢や希望を持って努力できるようになる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	小中学校における系統的な取組の実施
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、キャリア教育をすすめることができている。特に、中学2年生時に実施している職場体験学習は、子供たちにとって貴重な体験となった。 また、今年度は、『職業なりきりカード』を活用し、多様な職業観を育成する取組をすすめている。8月にはこの教材を有効活用するための研修を実施した。 今後、各校の実態の応じた工夫した取組を行う予定である。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
小中学校における系統的な取組の実施	小学校において、『職業なりきりカード』を活用した授業を行うなど、今まで以上に具体的な将来像を思い浮かべながら、職業観を育成する取組ができた。また、中学校においても、職場体験学習以外の取組を開始・模索を行っている。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	中学校において、職場体験学習以外の取組が不十分である。
改善の方向性	地域人材の活用等を行い、より幅広い知識や経験を積ます取組を考える。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	眞田 茂樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域に密着した学習機会の提供と地域の文化・人材の育成	
実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	委託費 400

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習と行動が循環する生涯学習社会の実現に向けて、また多様な担い手を創出するためにも、学びの成果を活かした市民企画運営による多種多様な事業が展開できることが望まれる。また、実施事業参加者数の増も含めた事業の充実度を図ることが引き続き必要である。
改善の方向性	意欲ある市民による幅広い分野での応募に結びつくよう、募集期間の設定などの見直しを行う。また、実施事業への多数の参加に結びつくよう広報等を工夫する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
取組内容(活動指標)	市民生涯学習講座の委託を実施。総額40万円。5月の広報で企画を募集し、5月下旬に締め切る。教育委員会内部の審査会に諮って、各事業の採択の可否と分配金額を決定する。新規事業や新規応募団体、実施事業参加者数の増加を図るための工夫も行う。
目標(数値目標)	自らの学びを活かして、発信・企画する意思のある市民を支援し(応募団体の視点)、市民に生涯学習の多様で有意義な機会を与える(参加者の視点)。応募団体数、事業数、事業参加人数が前年度同数またはそれ以上になるようにする。
達成効果(成果指標)	地域の人材を発掘し活用することで、多様な学びの機会の提供ができる。また、学びの機会を得た参加者が、発信・企画者となって、学びの輪が広がっていく効果も期待できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
実施内容(進捗実績)	より多くの団体に応募していただくため、例年より周知期間を2週間程度長くとした。5月に9団体10講座の申し込みがあり、審査の結果7団体7講座を採択した(計396,000円)。うち新規団体の採択は1件であった。前年度は9団体10講座の申し込みがあり、6団体6講座を採択していた。事業参加者については、増加を図るために広報こなんによる周知に加え、湖南省ホームページ上、および湖南省公式アプリの「こなんいろ」で各講座の広報も実施している。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民生涯学習講座委託事業の実施	応募団体は昨年度と同数の9団体10講座であったが、平成29年度より1団体1講座採用事業が増加し、7団体7講座の事業を実施した。のべ事業参加人数については、平成29年度の540名の参加者より減少し、500名が事業に参加した。また、学びの輪の広がりという点において、それぞれの事業への参加者は団体の既存会員が多く、新規参加者が少ないことが課題である。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>今までは広く講座を募集していたが、昨年度から取り組んでいるこなん市民大学事業と連携する必要があることから、受注者提案型で事業を募集する等募集方法を見直す必要がある。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>こなん市民大学の目的と合致した講座を募集し、こなん市民大学の活性化を図るとともに、こなん市民大学情報誌で広く情報提供を行うことによって、各受託講座の受講者の増加を図る。</p>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	図書館
所管長	井上 勝
担当者	岡本 美紀子

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	公立図書館の充実		
実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進		継続
	電子図書館サービスの推進		新規
	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働		継続
主な財源 (千円)	歳入	ふるさと基金 3,400 自治振興交付金等 7,831 電子図書館助成金 8,131	19,362
	歳出	消耗品費 3,159 委託料 4,973 使用料 3,176 備品購入費 16,816	28,124

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民の学びの質を高め、より多くの市民に利用・活用されるために、蔵書の充実を図るとともに、案内表示を工夫するなど、利用しやすい環境をつくる必要がある。また、より良いサービスを提供するとともに、質量ともに新たに増大・充実し続けている電子図書資料に対応していくことが必要。
改善の方向性	市民のニーズを把握し、資料を知る職員が資料と市民を結びつけることができるよう、両図書館と移動図書館で蔵書の充実を図る。 施設内では、だれもが快適に利用できる環境を整えるとともに、社会の変化に対応したサービスの実施に取り組む。 電子図書館を導入することで新たな電子図書資料の利用展開を図る。 図書館におけるボランティア活動を支援し、その学習の成果を活かした活動の場の提供に努め、地域との協働を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
取組内容(活動指標)	資料収集計画に基づき資料購入(新刊書、買い替え本含む)を行うとともに、地域資料の整理を進める。
目標(数値目標)	資料費の有効活用を行い、地域資料の提供スペースを拡大するなど、開架および書庫の配架変更も検討しつつ適正な配架に努める。
達成効果(成果指標)	市民の知る自由を保障し、暮らしに役立つ図書館、まちづくりに役立つ地域を知ることのできる図書館として、市民生活への浸透を図る。図書館を利用することで、市民は生涯を通じて学び、自らを向上させ、豊かで充実した人生を送ることができる。また、学んだことを地域活動や市民参画に活かすことができ、地域の活性化を図れる。
実施事業	電子図書館サービスの推進
取組内容(活動指標)	電子情報への対応のため電子図書館を導入する。電子図書館の導入でインターネットを通じ、いつでも、どこでも資料の利用が可能になる。
目標(数値目標)	電子図書館を導入することで新たな電子図書資料の利用展開を図る。
達成効果(成果指標)	質量ともに新たに増大・充実し続けている電子図書資料に対応することにより、市民が図書館の資料を利用していただける機会を増やすことができる。

実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
取組内容(活動指標)	朗読をはじめ、おはなし会や人形劇などのボランティア団体や生涯学習課と連携しながら、障がい者サービスや児童奉仕の充実を図るとともに、湖南省国際協会とも連携を図り、南米語学教室などの多様な学習機会の提供に努める。
目 標(数値目標)	社会情勢の変化や地域課題に着目し、市民や市役所の関係部局や関係団体とも連携を図りながら、障がい者サービスや児童奉仕を充実させるとともに、市民との協働を深め、共に創る図書館を目指す。
達成効果(成果指標)	障がい者サービスや児童奉仕の充実とともに、ボランティアをはじめ、市民に活躍の場を提供し、地域の人々と共に図書館を創ることにより、図書館利用の市民生活への浸透を図ることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
実施内容(進捗実績)	9月末現在、新規購入図書は4,047冊、7,089,277円を購入済でほぼ計画通り執行している。除籍済(リサイクル、できないものは廃棄)冊数は1,107冊で、除籍の年間目標を今年度の受入冊数と同程度の約1万冊としているが、やや進捗が遅れている。
実施事業	電子図書館サービスの推進
実施内容(進捗実績)	11月7日のサービス開始に向けて最終調整中。電子図書館用のホームページは作成済で、10月に諸々の設定予定。
実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
実施内容(進捗実績)	美展委員および生涯学習課と連携し湖南省美術展とのコラボレーション展示を開催するなど各種関連団体と連携して様々な事業を開催。また、従来の図書館ボランティアを再編し、湖南省図書館サポーター制度を新たに立ち上げ、サポーター養成講座を開催した。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進	図書購入については、計画通り執行できた。除籍については、作業にやや遅れがあり、データの的には、年度内除籍となっていないが、新年度にずれ込んだ作業もほぼ1か月ほどで残り作業を終えられる見込みである。	A ⊙ B C D
電子図書館サービスの推進	11月7日にサービスを開始した。電子図書館用資料の購入についても、おおむね計画どおり揃えることができた。	A ⊙ B C D
ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働	美展委員および生涯学習課と連携し湖南省美術展とのコラボレーション展示を開催するなど各種関連団体と連携して様々な事業を開催。また、従来の図書館ボランティアを再編し、湖南省図書館サポーター制度を新たに立ち上げ、サポーター養成講座を開催した。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>児童期～10代の利用及び、高齢者へのサービスの向上に向けた業務の改善を行う。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>・移動図書館車により、保育園・こども園・幼稚園を巡回するとともに、小学校については、試験的に、下田・水戸の2校を巡回する。電子図書館の普及を図り、10代の利用を想定した電子図書を積極的に増やしていく。また、大きな活字の図書も積極的に収集する。</p>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	石本 絢一

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	ライフステージに応じた体と心を癒すスポーツ活動の継続	
実施事業	積極的なスポーツ情報の発信	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 200

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	スポーツ機会の充実と市民のスポーツへの関心を高めるために、継続的に、より効果的な媒体とタイミングでの情報発信を行うことが課題である。
改善の方向性	情報発信について既存の媒体(ホームページ、facebook、「広報こなん」、「KONANスポーツ」など)を効果的なタイミングで活用することを継続するとともに、アプリ活用など新規媒体の活用も行いながら、効果的な発信手段について引き続き検討する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	積極的なスポーツ情報の発信
取組内容(活動指標)	イベント案内や試合結果を積極的に情報発信するとともに、スポーツ推進計画の見直しに係る市民スポーツ参画アンケート実施やイベントに参加された方へアンケートを実施するなどして、効果的な情報発信について検討する。
目標(数値目標)	facebook等を活用した年40回以上のスポーツ情報の発信と、市民スポーツ参画アンケート分析に基づく効果的な発信方法を検討する。
達成効果(成果指標)	日頃スポーツに関心のない人、特に若い世代を中心にスポーツを親しむ意識の高まりが期待できる。また、次年度に向けてのより効果的な情報発信につながる事が期待できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	積極的なスポーツ情報の発信
実施内容(進捗実績)	広報こなん、KONANスポーツ、HP、区配布等20回程度発信をしている。facebookやこなんいろ(アプリ)は利用人数が少なく、配信方法を絞って検討していきたい。10月21日に第2回湖南省スポーツフェスティバルが実施される。広報方法としてはKONANスポーツ、HP、広報誌、市内小中学校を中心としたチラシ(パンフレット)配布、市内一円ポスター掲出、タウンメール(こなんいろと連携配信)を検討している。また、広報誌・ポスターには2次元コード、タウンメールにはリンクを設定しており、湖南省HPに誘引し、チラシ(パンフレット)が見れる仕組みを構築する。開催当日受付時のアンケートにより効果のあった情報発信の方法がわかる予定である。市民スポーツ参画アンケートについては現在集計結果を調査・研究先へ送付したところであり、結果が出れば今後の参考としていきたい。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
積極的なスポーツ情報の発信	年間42回の発信を行った。また上記取組を実施したことにより、スポーツフェスティバルについては前年度(350人)の2.5倍以上もの参加者を呼び込むことができた。アンケートの結果により、情報発信の方法については一定の見解が得られたため、来年度更に効果的な情報発信をしていきたい。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>アンケートの結果でわかったことは、世代によって見る媒体に違いのあることである。1つの媒体に頼る方法ではなかなかすべての世代の方を呼び込むことは難しいので、様々な媒体を活用するのは勿論であるが、見る方に合わせた媒体内容の工夫が必要である。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>アプリも積極的に活用し、スポーツ関係の特設サイトやVTUBERといった新たな広報媒体の活用も視野に入れたい。</p>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	青木 義文

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	いつでも、どこでも、だれでも楽しむことができるスポーツ環境の充実		
実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	助成金	1,000
	歳出	事業費	1,000

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	誰もが気軽に参加しスポーツを体験できる機会としての「スポーツフェスティバル」についての市民の認知度を高め、市の恒例行事として定着することで、より多くの市民参加が得られるイベントとなることが望まれる。
改善の方向性	青少年層の参加者増に焦点を当て、内容を検討するとともに、学校との連携も図りつつ広報を強化する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
取組内容(活動指標)	第2回湖南省スポーツフェスティバルの実施。
目 標(数値目標)	誰もが気軽に参加でき、スポーツを体験できる市民スポーツフェスティバルをスポーツ関係団体と連携することで開催し、前年度以上の参加を目標とする。
達成効果(成果指標)	誰もが気軽にスポーツに参画できる機会づくりを提供することができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
実施内容(進捗実績)	第2回湖南省スポーツフェスティバル(10/21)を体育協会やスポーツ推進委員と連携して開催することとし、今回は特に青少年の参加を増やすためにコミュニティ助成事業助成金を活用しながら、事業内容や広報活動を工夫した。事業については、滋賀レイクスターズのバスケットボールスクールコーチ、滋賀ユナイテッドの野球選手、サッカー選手、パラバドミントンの選手といったスペシャルゲストを招いての球技教室の開催や、幼児の参加を促すため親子ふれあいリズム体操を実施する。また、スポーツに関心がない人にも足を運んでもらえるよう、石部高校の吹奏楽演奏や甲西高校の書道パフォーマンス、吉本芸人によるライブを実施するほか、屋台村の出店などもイベント内容に盛り込んだ。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施	スポーツフェスティバルは、事業内容や広報活動の工夫した成果もあり、参加者が888人と昨年355人の2倍以上の参加があり、幅広い年齢層の市民が気軽にスポーツと触れ合っていただくことができた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	次年度は、地方創生交付金の補助金を活用しながら、健康まつりとタイアップし、参加者に楽しんでいただける事業を目指していきたい。
改善の方向性	スポーツフェスティバルは、スポーツ体験を軸においたイベントでスポーツ振興に寄与するイベントであるが、健康まつりとタイアップすることで、健康に対する意識も高めてもらう。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	青木 義文

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	自然、歴史、文化、地域福祉を活かしたスポーツの促進	
実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 300

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	障がいのある人もない人もスポーツを楽しめるために、障がいのある人がスポーツを実施する機会の確保が引き続き必要である。
改善の方向性	障がいのある人が行うスポーツ活動に理解を深め、障がいのある人もない人も一緒にスポーツ活動ができる機会を関係団体と連携しながら確保し、周知および参加者の増加を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
取組内容(活動指標)	障がい者スポーツ団体との連携、支援
目標(数値目標)	湖南省体育協会、総合型地域スポーツクラブ「ちよいスポクラブ」、スポーツ推進委員などに働きかけ、年間4回以上、障がい者スポーツ大会の運営に参画する。
達成効果(成果指標)	各スポーツ団体が障がいのある人のスポーツ活動に理解を深めることにより、定期的なスポーツ機会の充実につなげることができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
実施内容(進捗実績)	3回の大会等に参画した。①「いきいき風船バレーボール大会」(5/20)にスポーツ推進委員、ちよいスポクラブ部員、体育協会部員がスタッフ、選手として参画した。②ポッチャ大会(9/9)には、体育協会役員、事務局が参画した。③甲賀地域の余暇支援活動(ふれあいサロン)(9/2)には、スポーツ推進委員が指導者として参画した。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
障がい者スポーツ団体との連携、支援	体育協会及び障がい者関係団体と連携を取りながら、ちよいスポクラブやスポーツ推進委員の協力を得て、各大会、事業を4回実施することができた。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	引き続き、継続した取組が必要である。
改善の方向性	障がい者スポーツについては研修会なども多く開催されている。積極的に参加し、より理解を深くしていくことで、誰もが生き生きと楽しめる事業の展開を目指す。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	氏丸 隆弘

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	歴史文化遺産の保存と活用	
実施事業	文化財講座の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費、報償費、旅費、消耗品費

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土の歴史や文化財を知る市民を増やすためには講座の継続実施が必要である。受講者の固定化が課題である。
改善の方向性	こなん市民大学開校にあわせて、初心者も体系的に学べる講座を展開できるよう検討する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財講座の実施
取組内容(活動指標)	文化財調査によって得られた成果や湖南省の歴史を紹介する文化財講座を実施し、受講者数増に向けて広報の工夫などに取り組む。
目標(数値目標)	文化財講座については、昨年度と同様に6月から毎月1回のペースで実施し、受講者数の前年度比2.5%増を目指す。
達成効果(成果指標)	市民が郷土の歴史や文化財について知ることによって、地域の伝統や文化、文化財を大切にする意識が高まる。また、まちづくりに活用しようとする市民が増えることが期待できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財講座の実施
実施内容(進捗実績)	初級編として文化財講座「湖南省の歴史講座」を6月から毎月1回のペースで4回開催した。10月に5回目を開催し、11月からは上級編として「学芸員が語る－湖南省の歴史講座－」を毎月1回のペースで開催する予定をしている。なお、初級編の受講者は延べ79名で、前年度と同じだった。石部老人福祉センターと連携して広報活動に取り組むとともに、受講者に次回の講座内容を事前に伝えるなど工夫をした。上級編の開催に向けて、現在の受講者に継続して受講していただくように講座の内容を伝えるなど工夫していく。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財講座の実施	6月から初級編として「湖南省の歴史講座」を5回、11月から上級編として「学芸員が語る－湖南省の歴史講座－」を5回、1月に「文化財講座」を1回、2月から「ウツクシマツ講座」を2回開催し、のべ244名の受講者があった。今年度から実施した「ウツクシマツ講座」を除くと受講者数は、前年度比2.8%(51名増)となっており、目標値を達成した。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	郷土の歴史や文化財を知る市民を増やすためには講座の継続実施が必要であり、今後とも文化財調査を実施していく体制づくりの構築が必要である。
改善の方向性	文化財調査の成果により、新たな切り口で湖南市の文化財を紹介していく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	氏丸 隆弘

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域文化の市内外への周知		
実施事業	文化財展の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	歴史民俗資料館入館料	246
	歳出	報償費、需用費、委託料、指定管理料	1,261

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会をより充実させることが必要である。
改善の方向性	文化財展示の実施については、市民大学とタイアップするなどして取り組みを継続すると共に、市民が地域の歴史や文化を知り親しむ機会の充実に向けて引き続き検討する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財展の実施
取組内容(活動指標)	歴史ある市の魅力を発信する手段のひとつとして、東海道石部宿歴史民俗資料館を中心に文化財展を開催し、文化財調査によって得られた成果や、館所蔵品の紹介等を行う。
目標(数値目標)	東海道石部宿歴史民俗資料館では、2か月に1回のペースで特集展示を開催する。
達成効果(成果指標)	市民が文化財について親しむ機会の充実を図ることで、文化財を大切にする意識が高まることが期待できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財展の実施
実施内容(進捗実績)	年間計画に基づいて2ヶ月に1回のペースで特集展示を開催した。10月以降も継続して実施していく予定をしている。 特集展示を目的に見に来られた人数や市内在住者であるかどうかを把握していないことが課題である。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財展の実施	2ヶ月に1回のペースで、計6回の特集展示を実施した。年間入館者数も、2月末現在で前年度比98名増(平成29年度1,102人、平成30年度1,200人)になっている。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会をより充実させる必要がある。
改善の方向性	文化財展の実施については、取組を継続すると共に、市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会が充実するように引き続き検討していく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	西村 倫子・眞田 茂樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	4	新たな市民文化が育つ環境の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	市民との協働、市民への支援による文化の振興		
実施事業	市美術展の開催と支援 市文化祭の開催と支援	継続	
主な財源 (千円)	歳入	市美術展出品料	113
	歳出	人件費、委託料、補助金	1,150

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による美術展や文化祭を開催していくためには、美術展実行委員会委員の確保や文化協会とのよりよい連携を図っていくことが必要である。また、広報や内容を含め市民の関心を高める工夫も引き続き必要である。
改善の方向性	美術展実行委員については実行委員8名の確保に努める。また、文化祭については文化協会とのさらなる連携に努める。実行委員会等で市民の関心を高められる方策を協議し実施に向けて検討するとともに広報に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市美術展の開催と支援
取組内容(活動指標)	市美術展実行委員会に委託し、美術展を開催する。
目標(数値目標)	市美術展では展示会の認知度と必要性をさらに高めるよう取り組む。出展数、展覧者数とも前年度比5%増加させる。
達成効果(成果指標)	美術展をより知ってもらい、出展者や出品数、展覧者を増やすことで、市民の創作意欲の向上につながるとともに、レベルの高い作品を鑑賞できる美術展となる。
実施事業	市文化祭の開催と支援
取組内容(活動指標)	市文化協会に委託し文化祭を開催する。運営については文化協会の会員と連携しながら、より市民に親しまれる文化祭となるよう内容の改善を図る。
目標(数値目標)	市文化祭では開催の認知度と必要性をさらに高めるとともに、文化協会の認知度を高める。出展数、出演者数とも前年度比5%増加させる。
達成効果(成果指標)	毎年の課題の変化に合わせて運営内容の改善を図り充実につなげることで、結果として文化協会への会員加入増が期待できるとともに、文化芸術活動に親しむ市民が増加する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市美術展の開催と支援
実施内容(進捗実績)	2月16日から24日までの開催に向けて第1回実行委員会を開催(7/5)し、募集要項等の開催準備を進めている。今年度は写真の部の実行委員がおらず、写真部門を他の委員の協力で進めていくことになっていることが課題である。
実施事業	市文化祭の開催と支援
実施内容(進捗実績)	10月27日、28日の文化祭開催に向けて毎月1回常任理事会を開催し、準備を進めている。9月3日、4日に公演部、9月14日まで展示部の参加者を受け、公演部は42団体、展示部は15団体の出演を予定している(前年度公演部44団体、展示部15団体の出演)。今年度は文化祭への来場者の増加を図るために広報こなんによる周知に加え、湖南市ホームページ上、および湖南市公式アプリの「こなんいろ」に掲載している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市美術展の開催と支援	来場者は昨年度(1,216名)より増加(1,233名)し出展数は昨年度(221作品)より増加(256作品)し大変賑わった。ただし出品数の増加により部門によっては選外となった作品があり、部門ごとの公平性が取れなかった。	A ⊙ B C D
市文化祭の開催と支援	出展点数は昨年度(538点)から減少(450点)し、出演者は昨年度(465名)から(445名)へと減少した。どちらの部も参加者が高齢化等で参加が難しいが、文化協会登録団体が行っているチャレンジ講座を通じて児童・生徒の参加を促した。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による美術展や文化祭を開催していくためには、美術展実行委員会委員の確保や文化協会とのよりよい連携を図っていくことが必要である。また、広報や内容を含め市民の関心を高める工夫も引き続き必要である。また、美術展では部門ごとの展示で不公平感が出ないように展示方法等を再考する必要がある。
改善の方向性	美術展実行委員については実行委員8名の確保に努める。また、文化祭については文化協会とのさらなる連携に努める。実行委員会等で市民の関心を高められる方策を協議し実施に向けて検討するとともに広報に努める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	西村 倫子

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	親育ての場の提供と人材の育成	
実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	報償費 104

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	前年度新規に委嘱したサポーターを含め、スキルアップを図っていく。
改善の方向性	家庭教育講座や子育てサポーター研修会等スキルアップの機会を継続して実施し、関連情報を提供していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援
取組内容(活動指標)	子育てサポーター研修の実施
目標(数値目標)	研修や活動参加者の前年度比増を目指す。
達成効果(成果指標)	親子プレイステーションの意義を理解し、親育ての活動に参画することで子育て支援の輪が広がり、家庭教育力の向上につながる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援
実施内容(進捗実績)	子育てサポーター会議において、必要な知識と共通認識しておきたい講座を検討し、子育てサポーター研修もかねて、家庭教育講座を開催する。昨年度は全4回と特別講座を開催し、延べ7人が参加。今年度は9月に2回開催で2人参加。10月に残り2回で、延べ7人参加を予定している。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援	子育てサポーター会議において、必要な知識と共通認識しておきたい講座を検討し、子育てサポーター研修もかねて、家庭教育講座を計4回開催し、延べ7人が参加。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあたって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	西村 倫子

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	基本的な生活習慣を身につけるための取組	
実施事業	各団体と連携による取組の充実	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 28

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて保護者をはじめとする大人が認識を深めるために、家庭での教育だけでなく、子どもに関わる団体や大人が連携して取り組みを推進する必要がある。
改善の方向性	平成27年度に社会教育委員会議で作成された生活習慣パンフレットについて、より幅広く活用を呼びかける。また、関係団体との連携に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	基本的な生活習慣を身につけるための取組
取組内容(活動指標)	PTAなどの団体と連携し、子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、生活習慣パンフレットを活用するなどして保護者への啓発を継続する。
目標(数値目標)	保護者への啓発の結果、毎日朝食を食べる児童生徒の割合の前年度比増を目指す。
達成効果(成果指標)	保護者への啓発を通じて、基本的な生活習慣を身に付ける子どもが増えることが期待できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	基本的な生活習慣を身につけるための取組
実施内容(進捗実績)	PTA連絡協議会常任理事会および青少年育成市民会議の役員会において、生活習慣パンフレットの説明と紹介をした。また、学校からの要請により夏休み前に配布を行った。(1校200部)

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
基本的な生活習慣を身につけるための取組	PTA常任委員会および青少年育成市民会議の役員会および理事会で生活習慣パンフレットを紹介したほか、要請により、評議員会および学校へのパンフレット配布を行った(1校200部)。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて保護者が認識を深めるために、生涯学習課が関わるPTA常任委員会や青少年市民会議の役員だけでなく、市役所内関係各課および市内全域の子どもに関わる団体や大人に推進する必要がある。
改善の方向性	平成27年度に社会教育委員会議で作成された生活習慣パンフレットについて、市役所内関係各課に活用を呼び掛けを行うなどして有効な活用に努める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	西村 倫子・小林 直登

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	2	青少年の交流と活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	青少年の体験的活動機会の充実と社会参加の促進		
実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実	継続	
	リーダー育成機会の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	交付金、基金繰入金	1,237
	歳出	人件費、旅費、通行料、委託料、補助金	5,984

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあたって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
取組内容(活動指標)	各種青少年団体の育成支援と、青少年育成市民会議・学区民会議をはじめとする青少年に関わる各種団体へ情報提供や助言等の支援を通じて、体験活動機会の充実に努める。
目標(数値目標)	各種団体による体験活動機会回数が、前年度同数またはそれ以上となるようにする。
達成効果(成果指標)	青少年が、体験的活動に参加し地域住民と交流することを通じて、自立性と社会性を養うことに結びつく。また、将来の活気あふれるまちづくりにつながることが期待できる。
実施事業	リーダー育成機会の充実
取組内容(活動指標)	中学生の実行委員による「青少年育成大会」、新成人の実行委員による「成人式」、北栄町との子ども交流事業を実施する。
目標(数値目標)	「青少年育成大会」実行委員については8～10人程度、「成人式」実行委員については8人程度(各中学校区2人)、北栄町との子ども交流事業については25人程度、事業を行ううえで適切な人数を確保する。まずは、応募者の積極性を評価し、一つの事業をつくりあげていく過程において、各人がもつ力を発揮でき、自信と充実感、達成感に結びつくよう適切な後方支援を行い、実行委員などの主体的な取組により、目的に沿って事業を開催する。
達成効果(成果指標)	市の事業にリーダー的に参画する機会を与え、地域においてリーダーとしての体験を行うことで、リーダー的人材が育つ。家庭においては、体験自体が成功・失敗であったとしても、次のチャレンジへとつながり、将来のまちづくりを支える人材となることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
実施内容(進捗実績)	各種青少年育成団体へは補助金交付や情報提供等を通じて支援を図っている。青少年育成市民会議・学区民会議では定期的に役員会・理事会を開催し、体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、各学区民会議が年間計画により体験活動を実施している。昨年度の同時期は14件実施しており、今年度については15件実施する予定だったが、台風接近による中止で14件の実施となっている。
実施事業	リーダー育成機会の充実
実施内容(進捗実績)	青春祭(青少年育成大会・12/2開催予定)実行委員は11人が集まり、9月末までに4回の実行委員会を開催済みである。成人式(1/13開催予定)実行委員は20人が集まり、9月27日に第1回実行委員会を開催した。北栄町との子ども交流事業については、子ども23人が集まり、事前研修(7月22日)を経て、8月19日～20日に本研修で北栄町を訪問し、リーダーを中心に北栄町の子どもたちと交流活動を実施した。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
関係団体との連携等による体験活動機会の充実	各種青少年育成団体へは、補助金交付や情報提供等を通じて支援を行った。青少年育成市民会議・学区民会議では、定期的に役員会・理事会を開催し体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、市民会議と8つの学区民会議では、年間計27回の体験活動機会となる事業を実施した。	A B C D
リーダー育成機会の充実	「青少年育成大会」実行委員については、中学生11人が全10回の実行委員会を通して企画運営に関わった。12/1当日は参加者320人の前で司会進行および実行委員企画の発表を行った。実行委員アンケートでは、「人の前に立って発表する、貴重な良い経験ができてよかった」「達成感があった」等の感想が寄せられた。 「成人式」実行委員については、新成人16人が全8回の実行委員会を実施し企画運営に関わった。自主性を高めるために、会議の進行を実行委員に任せた。1/13当日は式典等参加者445人の前で司会進行および実行委員企画を行った。実行委員アンケートでは、「一生に一度しかない成人式の実行委員をすることができて、とても良い刺激になった。」等の意見が上がった。 「北栄町との子ども交流事業」については、児童・生徒23人が交流大使として参加した。事前研修、本研修(北栄町訪問)、事後研修を実施した。事後研修では、青少年育成大会における活動発表展示物を作成した。参加者へのアンケートでは、「スケジュール通りに動けて良かった。北栄町の子ども達と交流ができて良かった」等の意見が寄せられた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	稲塚 繁樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	3	青少年健全育成活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	関係機関と連携した活動実施と、課題をもつ少年の対策・居場所づくり		
実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	国・県支出金	3,704
	歳出	人件費 賃金 報償費 旅費 需用費 役務費 使用料及び賃借料 等	12,058

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	就労しても離転職を繰り返す少年の多くは、何らかの生活課題や発達課題をかかえる場合が多い。家庭での支援が望めない場合も多く、「時間を守る」「食事をする」「挨拶をする」といった生活習慣の確立のための支援も重要となっている。そのためには、少年センターを核とする総合的な支援体制の構築が望まれる。少年が安定して就労できるよう、学校、発達支援室、職業安定所、企業等と連携して就労支援を展開していくことや、就学支援において高校を卒業することを目標に、単位取得のため在籍校への訪問や担任との情報交換をとおして有効な支援を続けていかなくてはならない。
改善の方向性	センターの相談件数のうち就労・仕事への相談が最も多く、次いで就学・学業にかかることである。これらの実態から、就労支援・就学支援を柱とした支援プログラムをより有効で的確なものにしなければならない。そのために心理臨床カウンセラーをはじめとする専門的な知識を活用した支援としていく。さらに、関係機関と就労や就学のための連携を深めるなどして、質の高い支援を提供していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
取組内容(活動指標)	個々の少年に対応した支援プログラムを作成し、センター内外の人的・物的資源を有効活用した組織的で実効性のある具体的支援に取り組む。 関係機関との定期的あるいは随時の連絡会議やケース検討会を重ね、個々の目標達成を図るための有効な支援に取り組む。
目標(数値目標)	アセスメントシートに沿った支援プログラムの検討と支援活動により、総合的な支援を80%を目標に充実させる。 立ち直り支援に関わる保護者・関係機関との協働を通して、少年の生活改善・就学・就労での支援効果を上げていく。
達成効果(成果指標)	重篤な問題行動へと発展するまでに、適切な支援ができ犯罪等への未然防止ができる。 就学・就労の早期実現と継続により、課題を抱える少年たちが社会的に自立し、将来的にも前向きに生きていく意欲と自信を持つことができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
実施内容(進捗実績)	昨年度より引き続きあすく支援をしている少年6名と、7月より新規支援2名を加え支援を継続している。そのうち、7名をアルバイトを含め一旦就労に結びつけることができた。また、就学支援を進めている少年については、高等学校卒業及び卒業後の就労へ結びつく支援を継続展開していく。今後もアセスメントシートを活用した個々の支援プログラムを検討して進める。 ただ、現在支援しているほとんどの少年が発達課題を抱えており、小さな理由で短期に離職する事例もめずらしくない。丁寧な相談活動と個に寄り添った支援に努める。ケースにより、他の相談機関や関係機関との連携を図る。 小学校・中学校・高等学校訪問を実施、生活改善や学習状況の実態把握を行い、非行の予防に努めた。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
生活改善、就学、就労支援の充実	<p>あずくる支援した少年11名のうち、支援目標を100%達成したので一旦支援を終了した少年が4名、環境の変化や異動により支援中止した少年2名、支援継続の少年5名。</p> <p>支援にあたっては、県内・市内あわせて、16の施設や関係機関・各種組織と連携した結果、充実した展開となった。今後も無職少年への支援も含めて、充実した支援と継続した見守りが必要である。</p>	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>アルバイトを含め一旦就労することができても、短期間で行かなくなったり離転職を繰り返したりするケースが多く、支援の回数が増えている。少年の多くは、生活課題や発達課題を抱え生活しているもの一般社会では理解されにくく、生きづらい側面を持っている。また、進学しても1年次での中途退学や進路変更が圧倒的に多い。基盤となる家庭への支援が必要な場合も多く、総合的な支援体制の構築が必要となってくる。様々なタイプの少年が支援を求めており、これらに対応するため、各機関との連携を深め高度な支援を継続していかなければならない。</p>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務のなかで、就労と就学に関わる相談がほとんどを占める。これらの実態から、生活改善を含む就労・就学支援プログラムをより充実させていく必要がある。就労や就学に対して目的意識を持ち意欲を高めるとともに、様々な関係機関や関連施設とのネットワークの構築をすすめるなどして、より高度な支援を目指す。</li> <li>・早い段階から生活改善や非行防止を図るため、小学校や中学校への訪問により実態把握に努める。</li> <li>・居場所を無くしたり、生きにくさを抱えた少年たちの居場所づくりをする。</li> </ul>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「鍛える学校文化」の醸成	
実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	なし
		0
		0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	基礎学力の定着に向けた取組の継続
改善の方向性	授業スタイルの改善において、主体的対話的な深い学びの実践と併せ、基礎学力の定着をはかる。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
取組内容(活動指標)	「我が校は〇〇で△△の力を学力保障する」という取組課題を各校が設定する。
目標(数値目標)	「知識」の定着状況を問うA問題(*B問題はその「活用」)については全国平均に近づける。
達成効果(成果指標)	A問題についての結果が上昇すると、授業の中の「ふりかえり」を書く力も向上する。

## 5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
実施内容(進捗実績)	<p>小学校は国語・算数ともに、昨年度と比べて全国平均との差が広がる結果となった。特に、算数Aでは、「数と計算」「図形」「数量関係」において全国平均と10ポイント以上の開きが見られる。このことから、基礎・基本の力を児童が身に付けるための時間を保障するとともに、単元における身に付けさせたい力を着実に積み上げることが重要である。国語Aについては、読むことの授業改善を推進するとともに、正しく漢字を書くことや音読等の学習活動の充実を図る必要がある。</p> <p>中学校は、国語・数学ともに昨年度より全国平均との差が縮まっている。特に、国語Bにおいては、成27年度より徐々に伸びがみられており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とともに、全国平均との差が縮まっている。また、校長会・教頭会においても、課題点や共通実践の方向性について協議を行った。</p>

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学習の基礎力を重視した各学校における共通実践	調査結果の状況は、ここ数年全国平均との差が縮まりつつある。ただ、B問題では成果がみられているが、A問題で基礎基本の定着に課題がみられた。	A ⊙ B C D

## 7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	基礎学力の定着に向けた取組の継続
改善の方向性	授業スタイルの改善において、主体的対話的な深い学びの実践と併せ、基礎学力の定着をはかる。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現	
実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	報償費(謝礼)
		0
		324

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学力向上委員会をはじめとする組織的な事業の推進。各学校において定着しつつある「授業の湖南省スタイル」の実践を深める。
改善の方向性	学力向上委員会をはじめとする組織的な事業の推進をはかり、「授業の湖南省スタイル」の深化を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践
取組内容(活動指標)	「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現に向け、一人ひとりの教職員が「学力保障」が湖南省の喫緊の課題であることを認識し、3つのプログラムである、授業改善(授業の湖南省スタイルの定着)、読書活動の推進、家庭学習の充実について、中学校区が連携し、その推進を図る。
目標(数値目標)	全教職員が「授業の湖南省スタイル」で授業をする。
達成効果(成果指標)	教員の授業力を向上させ授業改善を進めることにより、子どもたちの自尊感情が向上することによって、主体的に学ぼうとする意欲が高まり学力向上が実現する。

## 5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践
実施内容(進捗実績)	市内全学校において、授業の湖南省スタイルによる授業改善を推進。多数の小学校において「授業の湖南省(〇〇小)スタイル」の定着により、全クラスで安定した授業を進めることができている。授業者がなぜ「授業の湖南省スタイル」に取り組んでいるのか十分理解できておらず、形式的になっている。 また、ワーキンググループ教員による先進的な授業実践の公開・研究を実施し、取組の広がりと深まりに努めている。7月末には、ワーキンググループ授業研究会を開催。今後実施する研究授業について、教科ごとに協議を行った。校長会・教頭会においても、課題点や共通実践の方向性について協議を行った。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組がなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「授業の湖南省スタイル」による授業実践	市内全学校において、授業の湖南省スタイルによる授業実践を推進した。加えて、ワーキンググループ教員による先進的な授業の公開・研究を実施し、実践内容の深まりを市内の学校に広げることができた。	A B C D

## 7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学力向上委員会をはじめとする組織的な事業の推進。各学校において定着しつつある「授業の湖南省スタイル」の実践を深める。あわせて、「立腰」教育の推進を図る。
改善の方向性	H30年度末に作成した「授業づくりのつぼ」を活用し、市内各校の実践をより深める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	語彙の量と言語の質を高める取組		
実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組		継続
主な財源 (千円)	歳入	寄付金	50
	歳出	報償費(謝礼、副賞)、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費	619

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	全ての学校で「ことばの宝石箱」を活用しているが、学校によって取組推進の状況には差があるため、より積極的に活用できるようにする必要がある。
改善の方向性	国語主任会などで「ことばの宝石箱」の活用について交流する時間をとり、各校の意識を高めていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組
取組内容(活動指標)	音読集「ことばの宝石箱」(平成28年改訂)を、市内小学校3年生に配布・活用。また、第11回目の事業で詩や五・七・五部門において、作品募集、審査、表彰を行う。第5～10回の優秀作品集を作成・発行する。
目標(数値目標)	各校で、「ことばの宝石箱」を使って暗唱・音読・群読などを行い、多くの作品に出会う。また「湖南省の小さな詩人たち事業」では、日頃の学習を生かし、詩や五・七・五部門に応募することで表現力を鍛える。
達成効果(成果指標)	この事業を通して、市内の児童生徒に豊かな言語力や、表現力を養うことができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」
実施内容(進捗実績)	国語主任会で「ことばの宝石箱」の活用について交流することで、暗誦や音読などへの取組の意識が高められるようにした。暗誦を達成した子どもに「こころの賞状」を活用して表彰することにより、意欲的に取り組む子どもが増えている。 「湖南省の小さな詩人たち事業」では、現在各校で作品づくりに取り組んでいるところである。「教育だより」で詩を書く喜びについて発信し、取組への意識づけを図った。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組	「ことばの宝石箱」の活用等による暗誦や音読の取組を各校で進め、暗誦を達成した子どもに「こころの賞状」を活用して表彰する学校が増えている。各校の「ことばの宝石箱」の活用状況について十分に把握できなかった点は課題である。 「湖南省の小さな詩人たち事業」について、全ての学校で全校児童生徒を対象に作品づくりに取り組むことができた。市内国語科主任や学識者による審査を経て、優秀作品について表彰式を開催し表彰・発表することができた。また、取組や優秀作品について、広報誌「こなん」や教育だより、ホームページで広く発信することができた。	A ⊙ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	「ことばの宝石箱」の活用について、学校によって取組推進の状況に差があるので、より積極的に活用して暗誦や音読に取り組む必要がある。
改善の方向性	国語科主任会で活用状況や取組の成果について交流し、積極的に推進している学校の取組について、教育だよりや校長会等で発信し広めていく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	山中 和香

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	インクルーシブ教育を実現するための特別支援教育体制整備		
実施事業	専門家チーム会議による事例検討 巡回相談の実施・担当者会議の活用 特別支援教育コーディネーター連絡会の実施 個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ きめ細やかな湖南省就学支援委員会の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	458
	歳出	報償費(謝礼)	1,209

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システムや特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの必要性が周知できたが、児童生徒の理解を合理的配慮の決定に活かすことなど、取組の充実はまだ十分ではない。
改善の方向性	アセスメントに基づいた支援の充実を図り、学齢期前後と合わせて切れ目ない支援を行うための体制整備を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
取組内容(活動指標)	専門家による事例検討会議を定期開催する。医療との連携が必要なケースについて事例検討し、各機関の専門性の維持・向上に資するとともに、緊急を要するケースにも迅速に対応できるようにする。
目標(数値目標)	医療に関わる事例検討や情報交換により、緊急を要するケースや他機関との連携が不可欠なケースの改善を目指す。各機関の専門性の維持・向上のため、アセスメントについての研修を深めて各機関の専門性の向上を図るとともに、インクルーシブ教育システム構築について検証するなど、市の特別支援教育全体の推進を図る。
達成効果(成果指標)	年間6回の専門家チーム会議、巡回相談担当者会議への医師の参加により、医療に関わる事例や、環境要因と障がい特性との相互作用に関わる事例などについても検討し、支援の方向性や具体について明らかにする。またインクルーシブ教育の視点から、個別の指導計画の作成や評価についてのスーパーバイズを行い、保護者本人参画で作成する指導計画の充実を図る。
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
取組内容(活動指標)	各校園における参観、諸検査の実施、校園担当者や保護者との面談を通して、個別指導計画の作成、活用、評価についてのサポートや、合理的配慮の検討、指導改善、就学について助言を行う。
目標(数値目標)	参観、諸検査実施、保護者や学校担当者などとの面談を通して、児童生徒のアセスメント向上や個別指導計画への反映、合理的配慮の決定や授業改善を図る。
達成効果(成果指標)	巡回相談を経て、ことばの教室通級、ふれあい教育相談室通級、就学支援などへつなぐ視点にたち、個別の指導計画の作成に対する保護者同意を高める。 巡回相談担当者会議への隔月での医師参加により、医療的介入が必要なケースへの迅速な対応を図る。

実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
取組内容(活動指標)	市の特別支援教育の推進に向けて、具体的な取組を進めるための共通理解の場とする。情報交換の機会や関係機関からの研修の機会も持てるよう計画的に運営する。
目 標(数値目標)	中学校区での情報交換を重視し、一体となって取り組む体制を作る。
達成効果(成果指標)	共通理解する内容、機関からの研修、中学校区での情報交換を設け、推進上の課題を検討する。同僚性を活かして事例から学ぶ機会を設けることで、コーディネーターの力量を高め、取組の一体化を図る。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
取組内容(活動指標)	園と小学校、小学校と中学校といった校種間での引継ぎは、個別の事例、学校園体制の双方について引継ぎを行う。中学卒業時には個別の支援移行計画で進路先へ引き継ぐ。保護者への指導計画提供により、課題に対して役割分担して取り組むなど学校園と家庭が協働して子どもの発達支援を行う。
目 標(数値目標)	個別の指導計画を確実に引き継ぐことで、進級や進学後の支援に円滑に移行できるようにする。保護者(本人)の教育的ニーズを反映して作成し、懇談の際に説明しながら提供するなど、慎重かつ滞りなく提供する。
達成効果(成果指標)	保護者を交えた懇談での活用状況を把握する。活用できた例や引き継ぎが活きた例などを、研修の機会に紹介することで、保護者との連携体制の強化を図ると共に、教育効果を上げる。
実施事業	きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施
取組内容(活動指標)	関係機関からの情報、園での具体的な支援情報を基に、就学相談を進める。その際、個の特性に応じた支援のあり方について、専門チーム会議、巡回相談、校園内委員会の連携をベースに、保護者との話し合いを持ちながら総合的な見地から判断する。
目 標(数値目標)	個々の児童生徒の教育的ニーズに基づく支援や指導について示すとともに、保護者への情報提供を行い、最もニーズに応じることのできる学びの場について、保護者と建設的対話により検討する。
達成効果(成果指標)	児童生徒のアセスメントを共有し、就学先などについて情報提供をきめ細やかに行い保護者との合意形成を継続的に図る。 就学後も継続して状況を把握し、必要に応じて就学について検討し、最も望ましい学びの場を活用して指導が受けられるようにする。

## 5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
実施内容(進捗実績)	医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、事例を持ち寄り検討を行っている。医療へのつながりがスムーズに行えるような事前の検討となっている。インクルーシブ教育モデルスクール事業への検証は後期を中心として行う予定。2ヶ月に1回実施。
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
実施内容(進捗実績)	本年度、石部小学校に通級指導担当が配置され、巡回相談担当を兼務している。市内各中学校校区に1名ずつ巡回相談担当が配置されるようになり、よりきめ細かい相談業務が可能となった。 、毎月1回担当者会議を開催することで、連携を密に図っている。
実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
実施内容(進捗実績)	保幼小中を1回、小中を2回開催し、個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げ全体で確認している。また、中学校区での情報交換の場も確保してきた。福祉的な視点の研修会にも参加し、市内全体のレベルアップを図っている。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
実施内容(進捗実績)	特別支援学級の個別の指導計画の提出時期を変更。校園長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成と活用について再確認を行った。内容や活用の仕方について周知を図った。
実施事業	きめ細やかな湖南省就学支援委員会の実施
実施内容(進捗実績)	就学先決定に向けて計画的に相談を繰り返してきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図っている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
専門家チーム会議による事例検討	医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、専門家による検討が必要な事例を持ち寄り会議を行った。必要なケースについて医療にスムーズにつながることができた。また、医師のアドバイスを指導に活かすこともできている。2ヶ月に1回実施。	(A) B C D
巡回相談の実施・担当者会議の活用	毎月1回会議を開催。校内支援委員会の検討を経て巡回相談につながるケース、担当から直接連絡があるケースなど、対応について検討を行い支援に生かすことができた。情報共有をすることで密な連携が図れている。	(A) B C D
特別支援教育コーディネーター連絡会の実施	計画通り保幼小中の連絡を2回、小中の連絡会を2回実施。保幼小中が集まる会では情報交換の時間がとても有効である。個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げ全体で確認をし、中学校区での情報交換の場も確保してきた。	(A) B C D
個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ	特別支援学級の個別の指導計画の提出回数を変更。個別の教育支援計画の作成にも着手する。校園長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成について再確認を行った。実際、記載内容についての認識が統一できておらず、内容に差が出ている。	A (B) C D
きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施	就学先決定に向けて計画的に相談を進めてきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図った。ほぼ、希望や答申にあった進路を決定できた。	A (B) C D

7. 来度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	個別の指導計画・教育支援計画に記載する内容のさらなる充実と活用。放課後等デイサービスなど児童生徒の利用する福祉サービスとの連携。
改善の方向性	理解を図るための情報を伝えたり、共通理解を図ったりするための研修会を実施するとともに、アセスメントに基づいた支援の充実と切れ目ない支援を行うための体制整備を行う。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	山中 和香

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	湖南省ことばの教室の運営	
実施事業	湖南省ことばの教室の充実	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	賃金、報償費(謝礼)、旅費、消耗品費、燃料費、備品購入費
		0
		12,204

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、という理念に則り、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要がある。
改善の方向性	特別支援教育の視点に立った授業に市内一体となって取り組むこと、特別支援学級での指導の充実、アセスメントに基づいた合理的配慮の決定と実施を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
取組内容(活動指標)	通級生のアセスメントを立て、個別の指導に活かすとともに、集団生活や学習上の課題などに活かせる支援のあり方について、校園や保護者に情報提供を行う。市内の保育・教育関係者を対象として研修会を開催したり、「湖南省読み書きチェック」によるスクリーニングで、支援を必要とする児童の早期発見を図る。 市内4中学校区のことばの教室が核となり、福祉部との連携も図りながらアセスメントの充実につながる巡回相談の活用や効果的な合理的配慮についての助言を行う。
目標(数値目標)	コミュニケーションの課題、学習上の課題などニーズのある児童生徒に、校園や保護者と連携した指導を行い、教育的ニーズに応える。 アセスメント情報を学校、園が活用できるように提供し、合理的配慮決定と内容の充実について助言し、合理的配慮が提供できるようにする。
達成効果(成果指標)	年間2回の園訪問、学校訪問による情報交換の他、湖南省ITネットワークを活用した日常の連携により、個別の支援、指導がアセスメントに基づいて行われる。 市内校園の個別の指導計画に、関係機関からのアセスメント情報が明記され、合理的配慮提供の根拠となる。また、個別の指導計画を保護者に年1回提供し、子どもの発達について支援者と保護者が協働して支援する。これらにより、支援を受ける主体者が力をつける。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
実施内容(進捗実績)	6月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメント支援方法について検討した。また、読み書きチェックの考察を基に作成した教材を製本するため、準備を進めている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容（最終実績）	達成度
湖南省ことばの教室の充実	6、11月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメント支援方法について検討した。（4回）長年続けている読み書きチェックの考察を基に教材を作成、製本し、各小学校の1年生に配布した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、という理念に則り、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要がある。
改善の方向性	特別支援教育の視点に立った授業に市内一体となって取り組むこと、特別支援学級での指導の充実、アセスメントに基づいた合理的配慮の決定と実施を行う。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	久保 亨

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	外国人児童生徒への学習支援		
実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	1,749
	歳出	報償費(謝礼)、保険料	2,624

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市費の通訳・母語支援員等の配置に限りがあり、学校・保護者・児童生徒の要望に応えられない場面があった。(突発的な生徒指導事案時の通訳・外国製気児童生徒転入時の対応等)
改善の方向性	市費の通訳・母語支援員配置校が連携をとり、必要時に派遣できる体制を整える。また、市役所勤務通訳者・国際協会の協力も得ながら支援を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施
取組内容(活動指標)	日本語取得が不十分な外国籍児童生徒に対して、通訳を配置し日本語指導を行う。
目標(数値目標)	特別の教育課程の定着を図る。また、4人の母語支援員を配置する。
達成効果(成果指標)	日本語教室に通級して日本語や日本の文化を学ぶことにより、日本の学校生活に適應できるようにする。また、通級児童生徒の交流会に参加して、より良い人間関係を築くことができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施
実施内容(進捗実績)	市費の常勤講師2名を日枝中学校と水戸小学校に配置し、母語支援員(補助金事業)4名を小学校6校と中学校3校に週数回配置しており、日本語教室での通訳や日本が十分理解できない児童生徒の支援にあたる等の業務を担当し、外国籍児童生徒の学力の向上と学校生活に適應するための支援等に大変重要な役割を果たしている。 最近の傾向として、母国より直接転入してくる児童生徒が増加しつつあり、日本語が全く分からない児童生徒に対応するには、母語支援員配置の日数が不足、十分な指導ができない状況が増えてきている。また、さくら教室(日本語初期指導教室)の需要も高まっており、9月30日現在14名の通級者と1名の通級予定者がおり、定員の20名に迫りつつある。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施	4月より3月まで、3人の母語支援員を7校に派遣し、児童生徒や保護者への通訳業務や連絡簿や保護者文書の翻訳業務に取り組んだ。その結果、児童生徒の授業内容の理解や保護者と学校との相互理解につながった。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>母語支援員を派遣している学校に関しては、通訳業務や翻訳業務も円滑に進めることができたが、外国籍児童生徒の少ない学校には予算的に配置できておらず、翻訳や通訳業務支障をきたすことがあった。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>本年度も予算的に厳しいところがあるので、県のいきいきサポート支援事業を活用し、月に1回母語支援員を派遣できるように進めたい。</p>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	本井 義久

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	多文化共生の推進		
実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	交付金	0
	歳出	賃金、消耗品費、医療材料費、通信運搬費、機械等借上料、教材教具費	6,911

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級修了後の円滑な転入のために、さくら教室と在籍校間との連携が必要である。また、前年度定員に達しそうなほど通級者数が増加したため、引き続き定員管理について注意を払う必要がある。
改善の方向性	各校の日本語教室窓口担当との情報共有を推進する。また、通級希望時には必ず現人数を確認する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
取組内容(活動指標)	日本語や文化(学校文化を含む)、習慣などを指導する。また、在籍校と連携しながら個々の状況に応じた対応を進める。
目標(数値目標)	個々の日本語能力、学校適応力の向上を図る。
達成効果(成果指標)	個々の外国人児童生徒の日本語能力が向上し、学校適応力が増すことにより、通級修了後の在籍校での生活を充実したものにすることができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
実施内容(進捗実績)	通級希望時には必ず現人数の確認を徹底できている。入国すぐの児童生徒が多く、定員20人に達しそうな状況が頻発しているため、3か月での通級修了を目指したいが、3か月では本来校に戻る日本語能力に達していない児童生徒がいる現状である。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
日本語初期指導教室「さくら教室」の充実	通級希望時には必ず現人数の確認、受入れの可否の確認を徹底できている。2学期末、3学期末には本来校に戻る日本語能力を習得した児童生徒数が増え、定員を超えた。	A ⊙ B C D

## 7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級修了後の円滑な転入のために、さくら教室と在籍校間との連携が必要である。また引き続き定員管理について注意を払いながら、通級が必要な児童生徒を受け入れる。
改善の方向性	各校の日本語教室窓口担当との情報共有を更に推進する。また、通級希望時には必ず現人数を確認する。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	1	人間量を身につけた子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	さまざまな今日的教育課題への対応	
実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進 再登校支援の充実	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	報酬(委員報酬)
		0
		87

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめをなくすための、『児童生徒が自ら考えた主体的な取組』が必要であり不十分なところがある。
改善の方向性	児童会生徒会活動の充実を校長会等で依頼し、より活発な活動を促す。また、『湖南省いじめをなくそうサミット』の内容についても、現状にあった内容を検討し広がりのあるものにしていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
取組内容(活動指標)	「第8回湖南省いじめをなくそうサミット」を開催し、児童生徒がいじめを無くす取組に、主体的に関わっていかうとする意欲を喚起する。 具体的ないじめ事案が発生した時には、基本方針に即して素早く対応する。
目標(数値目標)	「第8回湖南省いじめをなくそうサミット」に参加した児童生徒が、学校の現状を踏まえて、いじめを無くすためのアピール文を考えるとともに、サミットの様子や作成したアピール文を始業式や全校集会、人権集会等の機会に発表し浸透を図る。
達成効果(成果指標)	各校のアンケートで、「いじめはいけない」と思う児童生徒を100%にする。
実施事業	再登校支援の充実
取組内容(活動指標)	学校が、ふれあい教育相談室やことばの教室、さらに発達支援室等と連携し、児童生徒にきめ細かなアプローチを行いながら、再登校支援ができるようにする。
目標(数値目標)	学校と関係機関との連携強化により、学校復帰(別室登校や教室復帰)を目指す。
達成効果(成果指標)	学校とふれあい教育相談室、さらに関係機関とが連携することにより、児童生徒が段階的に学校生活に復帰できるようにする。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
実施内容(進捗実績)	各校、いじめ防止基本方針を策定し、『いじめを許さない学校づくり・誰もが安心して学校生活を送ることができる学校づくり』に取り組んでいる。特に、8月に開催した「第7回いじめをなくそうサミット」で作成したアピール文を全校集会で発表するなどし、児童会生徒会が主体となった取組に力を入れている。今年度は、学校の取組を地域へも発信して行く予定である。 いじめの認知件数は、8月末の段階で、昨年度24件に対し、今年度は23件であり横ばいの状態である。
実施事業	再登校支援の充実
実施内容(進捗実績)	学校とふれあい教育相談室との連携により、放課後登校など徐々に学校に復帰できるようになったケースもある。発達障害等の二次的症狀や家庭的な要因の場合も多く、その場合はことばの教室や家庭児童相談室との連携を密にして対応方法を考えていく。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進	湖南省いじめ問題対策連絡協議会等で、基本方針の確認・修正を行い各校へ周知を行った。また、基本方針の中で各校の取組を紹介し、更なる充実をお願いした。	A (B) C D
再登校支援の充実	学校とふれあい教育相談室の連携が円滑にされており、初期の段階での対応がすすんでいる。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめをなくすための、『児童生徒が自ら考えた主体的な取組』が必要であり不十分なところがある。
改善の方向性	児童会生徒会活動の充実を校長会等で依頼し、より活発な活動を促す。また、『湖南省いじめをなくそうサミット』の内容についても、現状にあった内容を検討し広がりのあるものにしていきたい。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	2	道徳力を身につけた子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	道徳教育の推進		
実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成		継続
主な財源 (千円)	歳入	委託金	1,650
	歳出	報償費(謝礼)、旅費、消耗品費、印刷製本費	1,650

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	文科省指定事業推進校については授業改善をすることができているが、その他の全ての学校についても授業改善がなされるようにする必要がある。
改善の方向性	推進校の取り組みを湖南省教育だよりなどで市内学校に伝えていったり、実際に授業を参観できる機会を提供するなどして、授業改善のポイントなどが具体的に市内教員に分かるようにしていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
取組内容(活動指標)	文科省指定事業「平成29年度道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を菩提寺小学校、日枝中学校を核として進める。推進校での実践の成果の普及を市内各校に広げる。
目標(数値目標)	菩提寺小学校・日枝中学校の研究発表会では、各校の取組の成果を市内に普及する機会とする。推進校を中心に「郷土資料集」を活用した授業を行い、指導案集を蓄積する。市の「こころの教育推進協議会」を機能させ、家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、自尊感情の向上を目指す。(自尊感情については、全国学力・学習状況調査質問紙を活用し、4月→1月の変化を検証する)
達成効果(成果指標)	家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、子どもたちの自尊感情や規範意識等の向上につながる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
実施内容(進捗実績)	市の「こころの教育推進協議会」を開催し、地域代表者や学識経験者の意見も取り入れながら、道徳教育を推進している。 指導主事と研究員が推進校の授業を定期的に参加し「考え議論する道徳」への転換に必要なことを助言している。また、道徳の授業参観(全クラス公開)を実施することで、学校での取組を家庭・地域と共有し、道徳教育についてともに考えるきっかけとなっている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成	<p>市の「こころの教育推進協議会」を年間3回開催し、学識経験者や地域代表と推進校が意見交流をしながら、道徳教育の充実に向けて協議することができた。</p> <p>推進校の研究発表大会では、各校の取組の成果を発表し、市内や県内に普及を図ることができた。</p>	<p>(A) B C D</p>

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土資料集「伝えたい故郷の話」の積極的な活用が望まれる。
改善の方向性	推進校を中心に郷土資料集の活用を促し、実践の記録を指導案集にまとめていく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課・図書館・学校教育課
所管長	吉永 恵子(生涯学習課) 井上 勝(図書館) 川邊 晋(学校教育課)
担当者	西村 倫子(生涯学習課) 岡本 美紀子(図書館) 松山妙子(学校教育課)

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	4	読書活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「湖南省読書の種まきプラン」に基づく読書活動の推進	
実施事業	(生涯学習課) 地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進 (図書館) おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進 (学校教育課) 学校図書館の機能を活用した授業の改善	継続
主な財源 (千円)	歳入	(生涯学習課)なし (図書館)なし (学校教育課)なし 0 0 0
	歳出	(生涯学習課)人件費 (図書館)報償費 (学校教育課) 報償費(謝礼)、消耗品費、修繕料、保険料、委託料、電算借上料、備品購入費 92 68 8,985

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	(生涯学習課) 「湖南省読書の魅力種まきプラン」の策定から3年が経過した。おおむね5か年計画であることをふまえ、関係各課の取組状況や課題、連携が図れているかなどを把握することが必要である。 (図書館) 児童書の充実やおはなし会の開催など、子どもと本の出会いの場を提供し、子どもの読書活動を推進する。そのためには、子どもと子どもの本について学び続けることが必要であるため、司書のスキルアップを図る。 (学校教育課) 市内全小・中学校で「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進めることができているが、学校によって取組に差があるため、どの学校も取組推進ができるようにしていく必要がある。また、新学習指導要領に対応した図書が少ない現状がある。
改善の方向性	(生涯学習課) 関係各課の取組状況を調査し、推進状況を把握するとともに、関係者会議を開催するなどして連携状況や課題などを確認する。 (図書館) 児童書を充実させ、定期的なおはなし会を開催することで、子どもと本の出会いの場を提供するとともに、乳幼児健診での保護者への啓発など、身近な大人に読み聞かせの大切さを理解してもらう活動を継続する。そのために、子どもの読書を推進する司書のスキルアップを図る。 (学校教育課) 市内小・中学校に予算を計画的に配当し、外国語教育等、新学習指導要領に対応した図書の購入を進める。継続して「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進め、授業実践を収集し授業づくりのヒントとする。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進
取組内容(活動指標)	各関係課が連携し役割を果たせるよう、推進体制を調整する仕組みを検討するとともに、各課の取組や第2次子ども読書推進計画における指標の達成状況等を把握するなどして、計画の評価・見直し・改善を含めた進行管理の適切な方法を検討する。また、読書活動推進の啓発や広報の充実に努める。
目 標(数値目標)	平成30年度の指標目標達成に向けて、関係各課の取組を把握し、連携状況や課題などを把握するとともに、「子ども読書の日」や読書週間等における読書活動推進の啓発を行う。(平成30年度指標数値例：・学校図書館における1校あたりの年間新規購入冊数＝小学校350冊、中学校450冊、・学校図書館の年間貸出冊数＝小学校20冊、中学校3.5冊、・1校あたりの学校司書の配置時間＝525時間、・学校図書館図書流通システムの利用件数、冊数＝195件、12,400冊、・児童図書の市立図書館での年間貸出冊数(12歳以下の子ども1人あたり)＝21.5冊)
達成効果(成果指標)	関係各課が連携し、それぞれの役割を果たし、また読書推進の啓発を行うとともに市民の協力を得ることで、効果的な読書活動の推進を図ることができる。また、読書活動によって、子どもの想像力・記憶力・思考力を育てることができるとともに、豊かな感性・人間性を育み主体的に生きる人間として育つために必要な判断力を培うことが期待できる。
実施事業	おはなし会の開催など、子どもと本の出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進
取組内容(活動指標)	関係部局とも連携しながら、子どもを持つ保護者を中心に、子どもと本を繋ぐ大人を対象として、子どもへの読み聞かせの意義についての啓発の工夫を行う。 また、おはなし会を継続するとともに、実施形態等の検証とPR方法の工夫を行う。
目 標(数値目標)	おはなし会の参加人数を29年度(1,298人)比で増加させる
達成効果(成果指標)	子どもへの読み聞かせの大切さを、保護者をはじめとする大人に伝えることにより理解を高める。より多くの人々が、おはなし会で実際に読み聞かせの機会に触れることにより、乳幼児期からの読書の推進に繋がる。 乳幼児期からの保護者による読み聞かせが子どもに与える楽しさや安らぎは子どもの自信につながり、継続的に読書に親しむことによって、自立して生きる力と人生の豊かさを得ることができる。
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善
取組内容(活動指標)	平成26年度に改訂した「新学校図書館図書整備5ヶ年計画」の5年目にあたる。「学校図書標準」の未達成の学校について予算を計画的に配当し、購入を進める。 学校司書の資質向上を図るために、研修会として有効であった「定例会」の内容を深め、「学校図書館機能を有効活用した授業」がより有効に児童生徒に働くようにする。
目 標(数値目標)	「学校図書標準」の数値(達成率30.7%)を、達成率46.1%に改善できるよう、予算・計画に基づき購入を進める。図書館整備については、改善を図った市内の学校の実践をさらに広め、読書センター・学習情報センターとしての機能を充実させる。 「湖南省図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」において、授業者・学校司書が連携した授業を通して、学校司書の専門的な知識を教職員だけでなく授業の中で、児童生徒への支援を充実させる。
達成効果(成果指標)	「学校図書標準」を達成することで、さらに学校図書館を活用した授業の充実を図ることができる。学校図書館を利用することで、児童生徒の情報活用能力の向上が期待できる。 学校司書と授業者が連携した「学校図書館の機能を活用した授業」において、「ポイント5」を生かした子ども主体の授業を展開することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進(生涯学習課)
実施内容(進捗実績)	啓発については、親子プレイステーションなどで実施した。課題としては、関係各課の現状把握である。今後は、第3次子ども読書推進計画に向けて適正な方法を検討する。
実施事業	おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進(図書館)
実施内容(進捗実績)	年度の半分を過ぎた9月末時点のお話会の参加人数は600人で、特に乳幼児向けのお話会は保護者とともに多く参加いただいている。平成29年度に引き続き、乳幼児健診時に読み聞かせの保護者への啓発などを行った。
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善(学校教育課)
実施内容(進捗実績)	「学校図書標準」の数値を達成している学校数は13校中4校で、現在も達成率は30.7%だが、未達成でも蔵書数が増えている学校が多い。 全ての小中学校で「湖南省図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」が実施されている。授業中での学校司書の果たす役割について研修会を実施することで、授業者と学校司書とが連携して授業を実施できるようになってきている。また、研修会ではブックトークの仕方を学びあったり司書間で情報交換をしたりすることを通して専門性を高めている。学校司書のブックトークにより、子どもの学習課題への興味関心を高めることができ、主体的に学ぶ姿が見られている。さらには、学校司書の持つ専門的な知識を生かして、子どもに本の目次や索引の使い方等について支援することで、子どもは本を使って自分の力で調べることができるようになり、「さらに自分で調べたい」という学習への意欲が増している。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進	親子プレイステーションなど機会を見つけて啓発は行ったものの、各課の取組の把握や進行管理の適切な方法を検討するには至らなかった。	A B <b>C</b> D
おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進	図書館職員及び読み聞かせのボランティアグループによるお話会を実施した。年間の総参加者数としては、平成31年度の目標数として掲げていた1,070人を上回る1,080人の参加があったが、昨年度実績の1,298人を超えることはできなかった。	A B <b>C</b> D
学校図書館の機能を活用した授業の改善	「学校図書標準」の数値を達成している学校数は13校中4校で、現在も達成率は30.7%だが、古い本から新しい本への入替が進み、未達成でも蔵書数が増え図書の内容が充実している学校が多い。 全ての小中学校で「湖南省図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」が実施されている。授業実践の成果を教育だよりで発信し普及を図った。また、学校司書の研修を年間5回実施し、授業支援のスキルを高めている。	<b>A</b> B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>(生涯学習課)「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて、現状と取組実績などを確認したうえで計画を見直していく必要がある。                  (学校教育課)「学校図書標準」の達成に向けて図書の充実を図っているが、学校間で差があるため、数値が低い学校の図書館の充実が必要である。                  (図書館)児童書の充実やおはなし会の開催など、子どもと本の出会いの場を提供し、子どもの読書活動を推進する。ただ、3歳児未満児、未就学児、小学生、中学生それぞれの年齢層に適したきめ細かなサービスを探っていく必要がある。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>(生涯学習課)「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて委員会を組織する。事務局として現状と第2次計画策定時からの変化や取組実績などを把握し、平成31年3月に策定された滋賀県の計画もふまえて見直しを図る。推進体制のありかたや進行管理の方法などについても委員会で協議していく。                  (学校教育課)予算の配当や寄付金等により計画する。また、子どもの読書意欲や図書活用を高めるために、選書について学校司書の研修を実施する。                  (図書館)3歳未満児向けのお話は好評なため時間帯を平日午前中に集中化し、ブックスタート事業との連続性をより強化する。また、未満児については、保育園等への就園率が近年かなり上昇しているため、希望園を募り、移動図書館車の巡回を実施する。また、小学校についても、公立図書館の利用と学校図書館の利用の状況を確認するため、2校に試験的に移動図書館車を巡回し、読書の数値の変化を調査する。また、子どもの読書についての啓発的な講演会を継続し、子どもの読書の重要性についても、保護者に引き続き訴えていく。</p>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校体育の充実	
実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	なし
		0
		0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
取組内容(活動指標)	各校において、体力向上に向けた内容(筋力アップトレーニング・持久力アップトレーニング等)を、年間指導計画の中に計画的に位置づけて取り組む。
目標(数値目標)	教科体育の充実と新体力テストにおける記録の向上を目指す。
達成効果(成果指標)	運動することを通して、自分の健康の保持増進に関心を持ち、体力向上にも繋ぐことができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、体力向上に向けた取組をすすめている。新体力テストの詳細な分析はまだできていない状況である。(全国との比較)

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
体力・運動能力の向上に向けた取組	全ての小学校で「10分間運動」を定期的実施することができた。そのことが児童の運動に対する興味関心を高めることにつながった。	A ⊕ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	井上 諒

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	子どものスポーツ機会の充実		
実施事業	第2回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施 スポーツ少年団入団率の増加	新規	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもの体力や運動能力が低下しているとともに、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいる。運動しない子どもの数を減らしていくことが課題である。
改善の方向性	子どもへの運動する機会を提供し、スポーツの楽しさを体験してもらう。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	第2回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施
取組内容(活動指標)	前年度に引き続き、多種目のスポーツ体験コーナーを設けるとともに、子どもが体を動かすことやスポーツの楽しさを体験できる教室を実施する。
目標(数値目標)	子ども対象の教室を2つ以上実施する。
達成効果(成果指標)	子ども対象に絞った教室を実施することで、体を動かすことやスポーツの楽しさが伝わる効果が高まる。楽しさを実感することで、運動を始める子どもが増加することが期待できる。
実施事業	スポーツ少年団入団率の増加
取組内容(活動指標)	子どもの体力や運動能力の低下の長期的な改善策として、定期的に活動を行うスポーツ少年団の入団を促し、入団率の増加を図る。
目標(数値目標)	入団率17%(28年度の改正に伴う1年生から6年生までの数値)
達成効果(成果指標)	子どもがスポーツを経験してスポーツに対する関心を高めることができ、運動しない子を減らすことが期待できる。また、入団すると卒業するまで続ける子どもが多いこともあり、短期的ではなく長期的な体力や運動能力の改善を図ることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	第2回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施
実施内容(進捗実績)	子ども対象事業としては、滋賀レイクスターズのスクールコーチを招聘したバスケット教室や、滋賀ユナイテッドの選手による野球教室、サッカー教室を実施する予定である。また、幼少期からスポーツ(運動)をすることの楽しさを伝えることができる機会として、幼児向けに親子ふれあいリズム体操を実施予定である。全ての競技・種目で子どもが参加可能である。
実施事業	スポーツ少年団入団率の増加
実施内容(進捗実績)	各小学校の全校生徒向けにスポーツ少年団のパンフレットの配布を実施した。また、各団に個別に学校等へチラシを配布するよう働きかけ、配布してもらっている。また、スポーツフェスティバルでもスポーツ少年団のパンフレットを配布予定で、スポーツに関心はあるもののスポーツ少年団に入っていない子どもに対する勧誘を行う。他には、青春祭などの文化的な行事にもスポーツ少年団の展示ブースを設ける予定で、スポーツへの関心が薄い子どもへのアプローチも実施する。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
第2回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施	予定していた通り、滋賀レイクスターズのスクールコーチの招聘したバスケット教室や滋賀ユナイテッドの選手による野球・サッカー教室を実施できた。幼児向けの親子ふれあいリズム体操も実施できた。子ども対象事業としては4つ教室を開催でき、多くの方に参加いただけた。	Ⓐ B C D
スポーツ少年団入団率の増加	スポーツ少年団の入団率は15.1%で目標には届かなかった。取組としては特に団員の少ない団は、積極的にチラシを学校に配布し入団率の増加に務めていただいた。また、青春祭でスポーツ少年団の展示ブースを設け、普段スポーツに関心が薄い子どもへのアプローチも実施できた。	A B Ⓒ D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どものスポーツ機会の充実という施策に対して、今までスポーツ少年団の入団率をあげることであり、子どもの日常的なスポーツ機会と考えていたが、スポーツの多様性に伴い、スポーツ少年団以外の種目を実施する子どもや、クラブチームに所属する子どもも多くなっていることから、スポーツ少年団だけの目標はたてるべきでない。スポーツフェスティバルについては、補助金の関係で同様に実施するのは難しいかもしれないが、来年度もできる限りの範囲で実施する。
改善の方向性	特になし

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	2	学校保健の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における健康教育の充実		
実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組	新規	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習をする機会が少なく、児童生徒に継続した指導が十分できていない。
改善の方向性	年間を通して計画的に学習する場を確保する。(保健体育、学級活動、道徳等さまざまな教科で学習する場を作る。)

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組
取組内容(活動指標)	薬物乱用防止教育を推進するために、年間計画を立て一年間を通した学習にする。また、健康福祉部との連携(保健士を学校へ講師として招き、専門的な知識の伝達をお願いしています。)を図る。
目標(数値目標)	各学校において、現行の学習内容を確実に継続する。また、さまざまな学習機会を利用して薬物の危険性について学ぶ機会を設ける。
達成効果(成果指標)	学校が年間を通して薬物乱用防止教育を行うことにより、薬物の危険性を学び、健康な生活習慣を心がけるようになる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、薬物乱用防止教育を進めている。引き続き健康福祉部等と連携し取組を充実させていく予定である。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組	外部講師等による専門的な学習を行うことができた。	A ⊕ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	学習をする機会が少なく、児童生徒に継続した指導が十分できていない。
改善の方向性	年間を通して計画的に学習する場を確保する。（保健体育、学級活動、道徳等さまざまな教科で学習する場を作る。）

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	3	食育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における食育の推進	
実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	なし
		0
		0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	朝食摂取状況調査の結果では、年々摂取者が減少しており心配である。児童生徒への指導だけでなく保護者に対する食への啓発が必要である。
改善の方向性	『保健だより』『給食だより』の内容を工夫し、保護者と協力した食育の推進を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
取組内容(活動指標)	食育指導を推進するために、健康福祉部と連携して計画的に進める。また、各中学校家庭科との連携を図る。
目標(数値目標)	健康推進員やボランティアと連携して、各中学校において、ふれあい食育教室を開催することにより、食に対する関心を高める。
達成効果(成果指標)	学校と地域が連携した、ふれあい食育教室を開催することにより、生徒が食に関心をもち、朝食の大切さや栄養バランスを考えた食生活を心がけるようになる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、食育指導を進めている。『保健だより』『給食だより』等による啓発やふれあい食育教室等の体験学習を行い食育をすすめているが、朝食摂取状況調査(6月)では、昨年度84.6%に対し、今年度は85.6%であり、横ばいの状況である。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
健康湖南21・食育推進計画の推進	健康推進員やボランティアの方々の協力により、各校の要望に沿った形で充実した体験活動ができた。	A ⊕ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	朝食摂取状況調査の結果では、年々摂取者が減少しており心配な状況である。児童生徒への指導だけでなく保護者に対する食への啓発が必要である。
改善の方向性	『保健だより』『給食だより』の内容を工夫し、保護者と協力した食育の推進を図る。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	長谷川 洋介

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	安全教育の実施	
実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	なし
		0
		0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	避難する状況はさまざまであり、今後多様な訓練の実施が必要である。
改善の方向性	各校の防災コーディネーターを中心に、あらゆる場面を想定した訓練を行う。(休憩時間災害発生時・引き渡し訓練等)

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
取組内容(活動指標)	年度当初から交通安全教室や避難訓練を、関係機関と連携して計画的に実施する。
目標(数値目標)	交通安全教室や避難訓練を通して児童生徒が危険を予測した動きを取ることができるようになるとともに、自分の命は自分で守っていこうという意識を持たす。
達成効果(成果指標)	児童生徒が交通安全に気をつけることにより、交通事故が減少する。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画通り避難訓練・交通安全教室が実施できている。その中で、消防や警察に助言をいただき、充実した取り組みになっている。 交通事故の発生状況は、9月末現在で、昨年度に36件に対し、今年度は14件となっており、大幅に減少している。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
各校園における交通安全教室・避難訓練の実施	全ての学校において、消防署と連携した避難訓練の実施ができた。そのことにより、専門的な指導を受け実践的な訓練となった。	A ⊕ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	さまざまな災害の可能性があり、今後多様な訓練の実施が必要である。
改善の方向性	各校の防災コーディネーターを中心に、あらゆる場面を想定した訓練を行う。（休憩時間災害発生時・引き渡し訓練等）

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	本井 義久

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	通学路の安全対策	
実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 1,101

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	事務局としてスケジュールに基づき適切な進行管理をするとともに、通学路の安全対策が着実に進むことが必要である。また、ソフト面においては、学校や地域との連携を強化していく必要もある。
改善の方向性	会議の機会を利用するなどして関係機関と協議を行い、連携して通学路の安全対策を進める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
取組内容(活動指標)	関係機関と連携をとり、9月に各小中学校PTAから2か所以内で通学路危険箇所改善要望書の提出を市PTA事務局の生涯学習課を通じて受け、関係者による合同点検を実施し、通学路安全推進会議において対策の検討を行う。検討結果は、一覧表として年度末に公表する。また、改善実施状況および効果把握についても定期的に確認を行い、結果を公表する。
目標(数値目標)	プログラムに基づき、事務局として関係機関と連携をとり、会議および合同点検の実施や対策、対策状況の公表までの一連の流れについて適切な進行管理を行う。
達成効果(成果指標)	通学路安全推進会議やプログラムが適切に機能することで、通学路の危険箇所に対する対策が進み、通学路の安全確保を図ることができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「湖南省通学路安全推進プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
実施内容(進捗実績)	9月に市内小中学校PTAから、市PTA事務局の生涯学習課を通じて改善箇所要望書の提出があり、10月下旬に合同点検を実施することとして日程の調整を行った。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「湖南省通学路安全推進プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	予定どおり、合同点検を実施しPTA事務局(生涯学習課)へ報告したほか、2月に対策一覧表と箇所図を公表した。また、過年度の要望についても対策実施状況を確認し公表した。	A(B)C D

## 7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	事務局としてスケジュールに基づき適切な進行管理をするとともに、通学路の安全対策が着実に進むことが必要である。また、ソフト面においては、学校や地域との連携を強化していく必要がある。
改善の方向性	会議の機会を利用するなどして関係機関と協議を行い、連携して通学路の安全対策を進める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	2	開かれた学校づくりの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	絶えず地域へ情報発信する取組	
実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	なし
		0
		0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	HPの更新
改善の方向性	最新の情報が提供できるように努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
取組内容(活動指標)	広報を発行し、各校園の取組に関する報告や各校園で課題となっていることを伝える。 特に、小中学校ではHPによっても情報発信を行い、紙媒体では、十分でない子どもたちの活動の様子について伝える。
目標(数値目標)	校園の広報は、月1回以上発行する。HPの更新は、各校のPC管理技術者の状況を踏まえ、できる限り全校園で更新するよう努める。
達成効果(成果指標)	校園からの情報発信は、校園に対する理解を深め、校園の取組に対する保護者や地域の協力を得やすい土壌づくりの一助となる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
実施内容(進捗実績)	校園広報については、各校園において月1回以上の発行がなされた。 また、ホームページの更新については、実情に応じ、その都度、更新がはかられた。特色ある学校行事についても、毎月プレスリリースを行い、情報発信に努めている。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信	各月1回以上の広報発行を行うことができた。	A ⊙ B C D

## 7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	HPの更新
改善の方向性	最新の情報が提供できるように努める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山元 正樹

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校施設的环境整備事業		
	小学校空調設備整備事業		新規
主な財源 (千円)	歳入	国庫補助金(学校施設環境改善交付金)	55,666
	歳出	設計委託料、監理委託料、工事費	345,742

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学校を使用しながら工事を行う必要があるため、夏休みを中心とした工事を行う必要がある。
改善の方向性	学校及び請負業者と連携を図りながら安全かつ迅速な施工に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	小学校空調設備整備事業の実施
取組内容(活動指標)	三雲、岩根、水戸、菩提寺小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を行う。また、石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校においては、来年度の工事に向け設計業務委託を行う。
目標(数値目標)	三雲、岩根、水戸、菩提寺小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を10月末で工事完了をする。また、石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校においては、2月末での設計業務委託を完了する。
達成効果(成果指標)	空調機を整備することにより、夏季の熱中症対策を行うとともに、快適で勉学に取り組みやすい学校環境をつくり学力の向上が図れる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	小学校空調設備整備事業の実施
実施内容(進捗実績)	三雲、岩根、水戸、菩提寺小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を10月末で工事完了を完了した。また、石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校においては、来年度の工事に向け、8月に設計業務の入札を行い落札業者との契約を行った。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
小学校空調設備整備事業の実施	三雲、岩根、水戸、菩提寺小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を10月末で工事完了を完了した。また、石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校においては、補助金の交付決定に併せ、予算の計上(繰り越し)を行い、設計業務を完了させた後、3月に工事入札公告を行った。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校において、平成31年度の2学期から空調設備を使用できるように、工程管理の徹底を行う必要がある。
改善の方向性	請負業者と連携を図りながら安全かつ迅速な施工に努める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山元 正樹

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	効率的な施設改修の推進		
実施事業	学校施設長寿命化計画の策定		新規
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	国の方針により平成32年度までに学校施設長寿命化計画を策定しなければならない。児童や生徒数が減少していく中で、学校における各教室の活用方法なども考慮しながら、老朽化に対する修繕や改修時の長寿命化対策を検討し計画を策定する必要がある。
改善の方向性	平成30年、31年度の2か年で学校施設長寿命化計画を策定し、より計画的な施設の改修や維持等を行っていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校施設長寿命化計画の策定
取組内容(活動指標)	専門業者による学校施設の現状調査等を検討しながら、国より配布され計画策定のシステムに必要な情報等の収集を行う。
目標(数値目標)	予算の確保を行い専門業者による現状調査を実施し、年度末までに計画に必要な情報等の収集を行う。
達成効果(成果指標)	専門業者による学校施設の現状調査により、市内各学校の施設の状況の把握がを行うことができる。またその情報を利用し平成31年度に学校施設長寿命化計画を策定することができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校施設長寿命化計画の策定
実施内容(進捗実績)	当初、学校施設のための長寿命化計画を策定する予定で準備等を進めていたが、本市の施策として、学校施設を含めた公共施設全体での長寿命化計画を策定することとなった。そのため行政・公共施設適正化室と現時点で収集した資料や情報についての共有を行った。今後は行政・公共施設適正化室が中心となり、教育委員会と一緒に平成31年度の計画策定を目指していく。

## 6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校施設長寿命化計画の策定	学校施設を含めた公共施設全体の長寿命化計画を行政・公共施設適正化室で策定することとなったため、現時点で収集した資料や情報についての共有を行った。今後は行政・公共施設適正化室が中心となり、教育委員会と一緒に平成31年度の計画策定を目指していく。	A ⊙ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	学校施設について、より具体的な改修の内容や予定時期、コスト等を示せるよう、行政・公共施設適正化室と連携を図りながら学校施設長寿命化計画の策定を進めていく必要がある。
改善の方向性	平成31年度において学校施設長寿命化計画を策定し、より計画的な施設の改修や維持等を行っていく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	宮口 裕紀恵

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	2	学校給食の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校給食の効率的な運営		
実施事業	アレルギー対応食、卵使用除去日の拡充	新規	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	備品購入費(アレルギー用容器・食缶・食器等新規購入費)	337

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	卵アレルギー対象者が来年度(未満児以上となる対象者・新入園児)増加するため、卵以外のアレルギーについて対応し、給食を提供していくことは更に困難であると予想される。
改善の方向性	可能な限り、卵や乳等を除去した食材を利用した献立を立案していく。現在対応している卵アレルギーに関しては、月1回除去日を設けているが、学期に1回できる月を増やす等して拡充していきたい。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	アレルギー対応食、卵使用除去日の拡充
取組内容(活動指標)	卵アレルギー除去給食の提供について可能な月は(学期に1回程度)、学校養護教諭や保護者と安全性を確認した上で、対応食を提供する除去日を月2回に拡充していく。その他、センター試食会(各学校試食会含)で、給食を喫食していただくことで、学校給食の内容について、市民や保護者にも理解を深めていただく。また、各学校等の児童・生徒のセンター見学についても積極的に受け入れ、分かりやすい説明や資料の提供をし、調理現場で実際に調理工程を見学してもらうことで、子どもたちが給食や食により関心を持ち、残さず給食を食べられるようになるような取組を引き続き行う。
目標(数値目標)	卵アレルギー除去で給食提供できる日を、月1回から2回(学期に1回程度)に増やして対応する。
達成効果(成果指標)	卵アレルギーを持つ児童・生徒・保護者に対し安心して給食を喫食してもらえる日を少しでも増やすことで、給食の良さや充実した学校生活、安全で安心した学校給食への理解を深めてもらうことができ対象者等の負担も軽減できる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	アレルギー対応食、卵使用除去日の拡充
実施内容(進捗実績)	卵使用除去対応日を5月から開始する予定をしていたが、書類やアレルギー食缶等の準備に時間が必要となるため、対応ミスを防ぐために、今年度からは6月以降から実施することに変更した。7月は、例年除去日を設けていないため、1学期は6月に1日(回)のみの代替え食提供となり、2学期9月は、卵アレルギー代替え食提供日(卵除去日)を2日(回)設けて実施した。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
アレルギー対応食、卵使用除去日の拡充	卵アレルギー対応対象園児・児童・生徒は平成29年度の25人から平成30年度は46人に増えたが、卵を除去または代替食の献立を施したアレルギー対応食の提供は4・5・8月を除き、月1回～2回実施し、合計11回提供した。(平成29年度は10回提供)	A ⊕ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	現在のアレルギー対応室の処理能力や他アレルゲンの混入の危険性を考えると卵以外のアレルギー対応食の提供が難しい。
改善の方向性	園児児童生徒の年代でのアレルギーの原因食物としては卵と乳製品の割合が最も多く占めることから、引き続き卵アレルギーの対応食をできるだけ増やすとともに、牛乳の提供についても保護者の申出により提供中止の措置を続けることとする。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	松山 妙子・村地 和代

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	教職員の資質と実践的指導力の向上		
実施事業	教師力アップセミナーの充実 東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	旅費	661

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	外国語教育についての研修を実施したが、小学校では教科化が控えているため、さらに詳しい研修を実施していく必要がある。
改善の方向性	外国語教育に関する研修を増やし、新学習指導要領に即した内容について学ぶことができるような講座をさらに組み込んでいく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	教師力アップセミナーの充実
取組内容(活動指標)	「講師は湖南省の教職員が行う」、「自分のニーズに合った講座を選択する」をコンセプトに他機関と連携した講座などを組み入れる「教師力アップセミナー」を夏季休業中に実施する。
目標(数値目標)	「重ねる」をキーワードに小・中教育研究会主催の大会・講座、いじめをなくそうサミット等を講座に位置付けることで、教職員の校務分掌や教職員のニーズをより加味した「教師力アップセミナー」にする。そのことにより、講座での受講者数の差を軽減する。
達成効果(成果指標)	「教師力アップセミナー」の講師は、自己の実践の整理・分析等に繋がるだけでなく、「伝わりやすい方法」を考える中で、さらに授業改善へと結びつけることができる。また、受講者のニーズに合った講座を受講することで、2学期以降の実践へと繋ぐことができる。
実施事業	東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」
取組内容(活動指標)	参加対象は、「学力向上ワーキンググループ」や「実践はたからもの事業」の過去の優秀賞受賞者、学校長の推薦によるものとする。意欲や向上心のある教員を、東京学芸大学に派遣し、幅広い視野を身に付ける機会を提供する。
目標(数値目標)	若手中堅教員の授業力向上と、総合的な資質向上を図る。
達成効果(成果指標)	「アドバンス研修」受講者は、学んだ授業改善の方策を2学期の自分の実践に繋ぐとともに、市内各校へ研修成果を普及し、教員の授業改善に対する意欲を向上させることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	教師力アップセミナーの充実
実施内容(進捗実績)	甲賀市とも連携をしながら32講座を実施した。一教職員につき一講座以上を選択し、のべ559名の参加があった。実践に即した研修であったため、積極的に参加する教職員の姿が見られた。研修後のアンケート結果より、どのセミナーも教職員にとって学びの多い満足できる研修会だったことがうかがえた。
実施事業	東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」
実施内容(進捗実績)	8月21日～8月24日に第五回湖南省現職教員アドバンス研修を実施した。学校長の推薦を受け、12名の市内若手中堅教諭が参加した。 今年度は、初日から東京学芸大学附属世田谷小学校での研修を組み入れることで、研修のまとめと交流の時間を十分確保した日程とした。また、文部科学省の研修を悉皆研修と位置付けた。前日に学んだことをまとめ、内容を十分に練り合うことで、参加者にとって学びが整理された。また、それらを十分に共有する時間を設けることで、参加者にとって深い学びとなった。 本研修全般に関わってのアンケート結果は、期待以上の成果があった9名、期待と同じ程度の成果があったが3名であり、学びを実感していることがうかがえた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
教師力アップセミナーの充実	小・中教育研究会主催の大会・講座やいじめをなくそうサミット等を講座に位置付けることで、教職員の校務分掌や教職員のニーズをより加味して実施することができた。また、新学習指導要領を視野に入れ、キャリア教育やプログラミング教育等今後重点を置いて取り組む教育について組み入れた講座について、各校からの参加が見られた。	A ⊙ B C D
東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」	本研修全般に関わってのアンケート結果は、75%が期待以上の成果であったと回答であった。また、今年度は互いの学びのまとめと交流に重点を置いた。互いに質疑応答することで、学びが深まり、満足と回答した受講者は83%であった。	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>教師力アップセミナーは講座受講者数に差が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「湖南省現職教員アドバンス研修」実施にあたり、平成32年度は東京オリンピック開催の年度であり、従前、利用していた国立オリンピック記念青少年総合センターが利用不可能であり、今後の宿泊・研修施設について検討が必要。</li> </ul>
改善の方向性	<p>教師力アップセミナーの参加者数について各校で制限を設けることで、校内で担当を意識して選択し、研修の成果を普及することに努められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度に平成32年度に向けての「湖南省現職教員アドバンス研修」の宿泊・研修施設について検討を重ねる。</li> </ul>

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	堀 早苗

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	組織対応と外部機関との連携強化	
実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	報償費(謝礼)
		0
		244

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	課題が複雑化・長期化しているケースへの関わりについて、解決の糸口が掴みづらい。きっかけとなった原因の把握があいまいなケースも多く、初めの関わりが重要であることを再認識してもらうよう関わっていくことを重点にしていく。
改善の方向性	関係機関が早くから連携し支援を行うことで、違う角度でのアセスメントや多様な気づきにより、継続的な支援が展開できるようになる。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
取組内容(活動指標)	子どもや保護者、学校の課題に対して、市スクールソーシャルワーカーや巡回相談と連携しアセスメントを立て、長期目標、短期目標や役割分担を明確にしたケース会議の実施に取り組む。教育と福祉の連携の中で、子ども支援を行っていく。
目標(数値目標)	園・学校や関係機関が、子どもや家庭を支える仕組みづくりを目指す。
達成効果(成果指標)	SSWの中学校区連携をさらに充実させるとともに巡回相談や発達支援室、福祉事務所との連携をより深めケース会議の効果的な運用について各校へ働きかける。また配置のない学校への支援も取り組んでいく。 多様なケースへの対応を迅速に行う。学校教育課に留まらず、他課、他機関と学校との繋ぎを重点とし、その取り組みを周知することで連携の充実に努める。保護者や子どもたちと必要時面談を行い、学校だけで把握がしづらい家庭環境のアセスメントの一端を担えるようにする。

## 5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
実施内容(進捗実績)	SSWの活用については中学校区内に1名の配置により、巡回相談との連携も活発になり、校区内連携がスムーズに行えている。配置校においては、各SSWから夏季休業中を利用して職員研修を実施し活用への理解を深める機会を持った。活用がはじめての学校については、同行訪問により活用の方向性等について共通理解ができるように努めた。 社会福祉士の各校への個別ケース会議への参加は、8月末時点で27件となっている。相談・連絡調整・その他の相談も含めた延べ件数としては、184件である。それ以外の機関連携として、今年度から人権主任会にも参加し課題のある家庭や子どもたちへの対応について共有を行っている。困難ケースについては、継続して保護者面談を定期的に対応中。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク	SSWの校区内連携については、年度当初には派遣依頼のなかった学校にも活用を広げ、次年度に配置希望が出るまでに理解を深めてもらうことができた。連携を深めるために、巡回相談およびことばの教室の担当者向けに福祉事務所のしくみや制度等について、研修をする場をもらい共通理解を行った。対応に難しさのあるケースについては、学校・支援者・保護者を含めて定期的に面談を持つことで支援を行った。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	SSWの活用について、配置人数が増えるほどに支援もしやすくなるが、SSW同士の共通認識も重要になるので、市内ではばらつきが出ないように連絡会の開催の方法について検討する。また、社会福祉士と学校との連携についても、各校の体制や担当者によってばらつきが出てきている。
改善の方向性	年度初めにSSWと社会福祉士の学校訪問を行い、管理職や窓口担当者となる先生との関わっていく子どもや保護者の確認および共通理解を行う。また、職員会議などの場を借りて新任や転任の先生方、活用をしたことがない先生方への周知が図れるように努める。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山元 正樹

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	2	コスト意識の醸成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校現場における管理意識の醸成	
実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化	新規
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費(教育総務課担当職員分のみ計上) 8,500

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>日常、各学校においてさまざまな修繕箇所が発生しているが、その中には現場の管理不十分により発生しているもの、また業者に発注するまでに詳細な状況確認により自分たちでの修繕が可能なものも少なくない現状である。今後は、教育委員会事務局と教職員が共に限られた財源を必要な修繕に充て、自分たちでも日々の維持管理を積極的に進めるといった意識を醸成させることが必要である。</p> <p>また、地域のボランティアの方々やPTAの方々による奉仕作業についても、施設の管理に必要な作業をお願いするなど、修繕範囲の検討を行う必要がある。</p>
改善の方向性	<p>現場での学校運営を行う教職員の施設管理に対する意識の向上を図るため、校長・教頭を中心に現場での施設管理の必要性を説明し、教育委員会事務局と連携しながら修繕方法などの検討を行うことで、財源のいる業者への発注修繕を真に必要な箇所へ充てることができる。</p>

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
取組内容(活動指標)	年度初めに行う学校予算配当説明会において、昨年度の修繕状況や日常の維持管理により防げる修繕などについて説明し、教頭を中心とした教職員の施設管理に対する意識の向上を図るとともに、教育委員会事務局との連携を強化する。
目標(数値目標)	昨年度の修繕内容を基に、教職員と教育委員会事務局が連携し、修繕の難易度に基づき、自分たちで修繕可能なものについては、自ら修繕を行う。
達成効果(成果指標)	教育委員会事務局と教職員が連携して施設の維持管理を行うことにより、児童や生徒たちにも施設を大切にすることが芽生えたとともに、限られた財源の有効活用を図ることができる。 また、日常の維持管理の徹底により、発生する修繕を抑制することができる。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
実施内容(進捗実績)	<p>修繕が必要な箇所において、各校長、教頭等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができた。今年度は、プール使用前の清掃時に各学校を回り、複数の学校において、教職員と一緒にプール底塗装の補修等を行い、より一層、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。</p>

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
行政と教職員における施設管理の連携強化	修繕が必要な箇所において、各校長、教頭等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができ、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教育委員会事務局と教職員が共に限られた財源を必要な修繕に充て、自分たちでも日々の維持管理を積極的に進めるという意識を醸成させることが必要である。
改善の方向性	平成30年度に引き続き、行政と教職員における施設管理の連携強化を行いながらコスト意識を高めていく。

## 平成30年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	村地 和代

## 1. 評価項目

基本的方向	1	学校が主体となって主権者教育に取り組む。
政策	1	学校・地域が連携して、夢と志を育てる主権者教育推進に取り組む。
施策	3	夢と志の持てる子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	主権者教育の推進		
実施事業	主権者教育推進事業	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	平成28年の公職選挙法改正に伴う選挙権を有する者の18歳への引き下げに伴い、主権者教育の重要性が提唱された。主権者教育の目的を、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるのみならず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて、身に付けさせるとした。しかし、学校現場では、十分にこの教育の趣旨が理解されていない。
改善の方向性	校長会、教頭会、教務主任会等を、核として主権者教育が夢と志を育てることにつながることを理解し、湖南省教育が目指す根っこが太くなることを浸透させる。また、コミュニティースクールの取組とリンクさせ地域力を活用した主権者教育推進に取り組む。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	主権者教育推進事業
取組内容(活動指標)	まず、教頭会において、①児童会、生徒会活動の活性化に向けた具体的な取組 ②地域行事にスタッフとして参画している活動 ③自分の意見を社会に発信する取組 ④社会科等における政治の仕組みなどの学習 ⑤主権者教育を教職員が意識的に取り組むことにより、夢と志を育てるには教頭としての役割は。について交流して各校で実践している主権者教育をあぶり出す。その後、校長会・教務主任会でさらに交流し深める。
目標(数値目標)	すべての教職員が主権者教育に関わるようにする。CSの中にも、主権者教育を位置づける。
達成効果(成果指標)	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて身につける。

## 5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	主権者教育推進事業
実施内容(進捗実績)	6月の校長会で主権者教育について、その目的や意義について国から示されているものをまとめたものや次期学習指導要領における位置付けを提示し、理解を図った。 また、平成29年度の教頭会であぶりだした各校で実践している主権者教育の取組を発達段階ごとにポンチ図に整理し、まとめた。発達段階における目指す姿をキーワードを示すことで、系統を意識できるようにした。 さらに、教頭会で、それらの資料をもとに各校の重点取組を検討し、今年度の方向性を共有した。現在各校で取組を進めている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
主権者教育推進事業	<p>昨年度の市内小中学校における主権者教育の実施事例は2事例であったが、今年度は、市内全ての小中学校における事例(13事例)を集約することができ、他校の実際の取組を周知することができた。</p>	A (B) C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>今年度、三雲小学校で第4学年社会科「これからの湖南市～市長、いかがですか。わたしたちが考えた未来の湖南市夢プラン～」では、市長を招いて児童がプレゼンを行った。このような自分たちで考えたことを市へ発信するような児童・生徒が参画できるような取組を広げる必要がある。</p>
改善の方向性	<p>今年度の自校での取組や他校の取組を踏まえ、教頭会で各校の取組を検討し、進めていく。</p>